YAMAHA

40X

船外機取扱説明書

058152

JMA00110

はじめに

ヤマハ船外機をお買い上げ戴きまことにありがとうございます。
この取扱説明書は、船外機の正しい取り扱い方法と簡単な点検、整備について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
船外機の取り扱いを十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、またご使用時には携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。

本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係わる注意情報を意味しています。

⚠警　告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してありす。

⚠注　意 取り扱いを誤った場合、重傷に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様の変更などにより、図や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、船外機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面の取扱店名、捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。
ヤマハ取扱店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

JMA20010

目　次



お使いいただく前に　1



各部の名称と機能　2



運転と操作　3



点検と整備　4

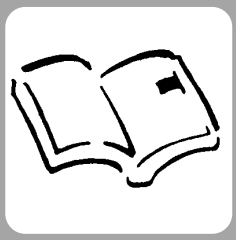


不具合時の対応　5



索引　6

よくお読みになってからご使用ください。





JMB00010

第1章

お使いいただく前に

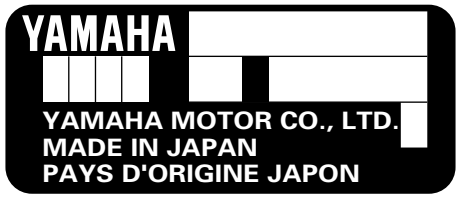
製造番号の記録.....1-1
船外機製造番号.....1-1
船外機の仕様区分.....1-1
安全にご使用するにあたって.....1-2
重要ラベル貼付場所.....1-3
燃料とオイル.....1-4
ガソリン.....1-4
エンジンオイル.....1-5
ギヤオイル.....1-5
バッテリ.....1-5
プロペラ.....1-7
始動安全装置.....1-8

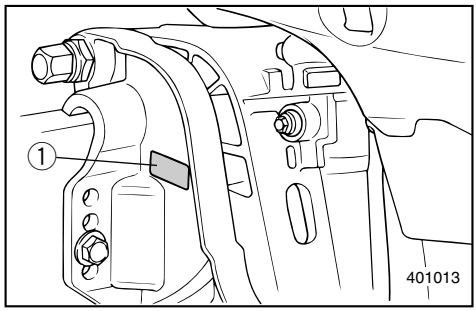
JMB10011

製造番号の記録

JMB10210

船外機製造番号





製造番号は、クランプブラケットの左舷側に貼ってあります。
ヤマハ取扱店への部品注文の際や盗難にあったときのために、空欄に番号を控えておくと便利です。

① 製造番号

JMB20110

船外機の仕様区分

本書での船外機製造番号（機種名称）による仕様の区分は、次のようになっております。

機種名称 / 仕様区分	40XWH	40XWT
手動始動	○	○
電動始動	○	○
ティラハンドル	○	—
リモートコントロール	—	○
マニュアルチルト	○	—
ハイドロチルト	—	—
パワートリム・チルト	—	○

JMB21011

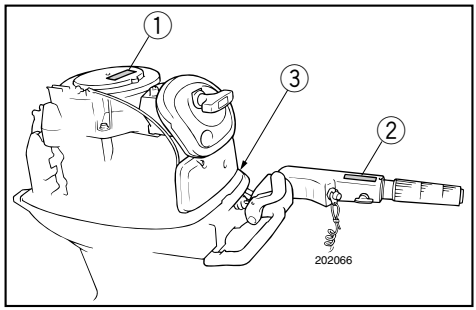
⚠ 安全にご使用するにあたって

あなた自身と同乗者の安全のために

- この取扱説明書をよく読んでからお使いください。
- 船体の取扱説明書、および全ての注意書きやラベルをよく読んでから運転を行なってください。
- 船体の最大搭載馬力を越える船外機の取り付けは危険ですから絶対に行なわないでください。
- 改造は絶対に行なわないでください。
- 飲酒運転は絶対に行なわないでください。
- 救命胴衣は必ず船内に搭載し、船舶検査機関承認のものをご使用ください。
- ガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いには十分注意を払ってください。特に、エンジン始動時には、ガソリンの洩れがないことを確認してください。
- エンジン始動前には、スロットル、シフト、ステアリングの作動確認を行なってください。
- 運転中は、緊急エンジン停止スイッチの装備されているものは、カールコードを手、足や衣服の丈夫な場所に取り付けてください。
- 天気予報等を確認してから出港してください。
- 航行予定を関係者（マリーナや家族等）に届けてから、出港してください。また、帰港時には必ず帰港の連絡を関係者にしてください。
- 操船中は、常識と適正な判断が要求されます。そのためには、海況の変化に応じた操船技量を把握しておかなければなりません。操船は、操船者の技量やボート本体の能力の範囲内で、必ず行なってください。
- 関係各所や団体等から出版されているボート関連の安全教本等も合わせて読んでおいてください。

他の船舶や遊泳者の安全のために

- 海の交通法規、地域規定やマナーを守った運転を行なってください。
- 遊泳者には、十分注意を払ってください。付近に遊泳者がいる時は、エンジンを停止してくだい。
- 航走は、常に周辺の障害物や船舶等に十分注意をし、安全なスピードで行なってください。
- 海水浴場等への乗り入れは、行なわないでください。



JMB30011

重要ラベル貼付場所

⚠警　告 ラベル

①

⚠ 警　告

安全にご使用いただくために、次の事項をお守りください。
●ご使用前に“取扱説明書”、“ラベル”を良く読んでください。
●始動時はシフトを中立にしてください。(シフト付機種)
●運転中は電装品には触らないでください。
●運転中は手や髪、服などが回転体に触れない様十分注意してください。
YAMAHA　6A1-83625-01

②

⚠ 警　告

この船外機には中立での始動装置が装備されています。
エンジン始動時にはシフトを中立の位置にしてください。
YAMAHA　6E0-83627-01

⚠注　意 ラベル

③

⚠ 注 意

混合燃料を使用ください

JMB01010

燃料とオイル

⚠警　告

ガソリンは高い引火性と爆発性があります。
- 給油中は、タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 給油は、エンジンを停止してから行なってください。
- 給油は、換気の良い場所で行なってください。専用燃料タンクの場合は、ボートから降ろして行なってください。
- こぼさないように、取り扱いには十分に注意を払って行なってください。
  こぼれた時には、ただちに拭き取ってください。
- 燃料タンクには、規定容量以上給油しないでください。
- 燃料タンクキャップは、確実に締めてください。
- 給油中は、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。
- 飲み込んだり、目に入ったり、または多量の揮発蒸気を吸い込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、ただちに石鹸等を使って洗い流してください。衣類に付着した場合は、着替え等を行なってください。

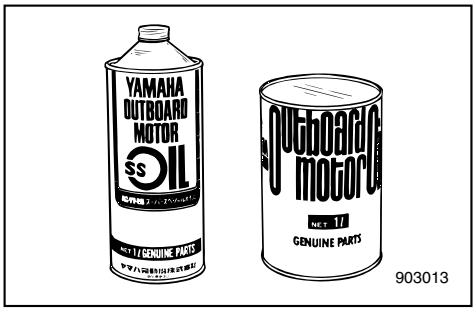
⚠注　意

水や不純物の混ざっていない、きれいな容器に入った、新しいガソリンを使ってください。

JMB51311

ガソリン

推奨ガソリン： 無鉛レギュラーガソリン



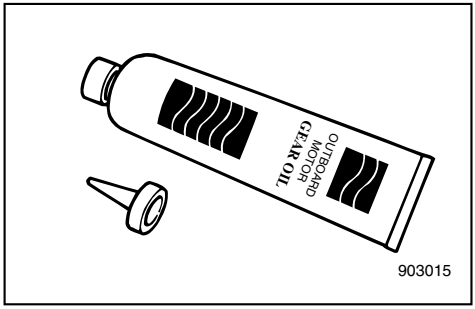
JMB53020

エンジンオイル(2サイクル用)

推奨エンジンオイル：
ヤマハ船外機オイル、またはヤマハ船外機スーパースペシャルオイル(ヤマハ船外機SSオイル)

部品番号　90890-6310F(0.5L)
90890-6310A(1L)
90890-6382H(0.4L)*1
90890-6382E(1L)*1
90890-6382G(4L)*1

(注) *1はヤマハ船外機SSオイルを示す。



JMB61010

ギヤオイル

推奨ギヤオイル;
ヤマハ船外機ギヤオイル、またはハイポイドギヤオイル(SAE90)

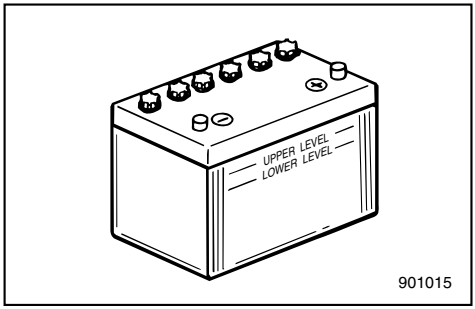
部品番号　90790-73602(350ml)
90790-73603(750ml)

JMU01818

バッテリ

⚠注　意

規定の容量に合わないバッテリは、使用しないでください。
規定容量外のバッテリを使用すると、電装系に供給電流が不足したり、過大な負荷が掛かったりして故障の原因になります。



この船外機(電動始動仕様)には、次の規格に適合するバッテリをご使用ください。

JMU01820

推奨バッテリ(JIS)：
65D31～95E41

JMU01822

⚠注　意

- レクチファイア、またはレクチファイアレギュレータが付いていないモデルは、バッテリの取付けは出来ません。

該当モデル：—

- バッテリを取付ける場合は、レクチファイアレギュレータを取付けてください。
- レクチファイア付きモデル

該当モデル：40XWH、40XWT

- メンテナンスフリーバッテリの使用はバッテリの寿命を縮める恐れがあります。
- 魚群探知機などのアクセサリーに接続する場合は、高電圧により、故障の原因となる恐れがあります。オプションのレクチファイアレギュレータを取付けるか電源の電圧が18ボルト以上に耐えるアクセサリーを使用してください。レクチファイアまたはレクチファイアレギュレータの取付けについては、ヤマハ販売店にご相談ください。

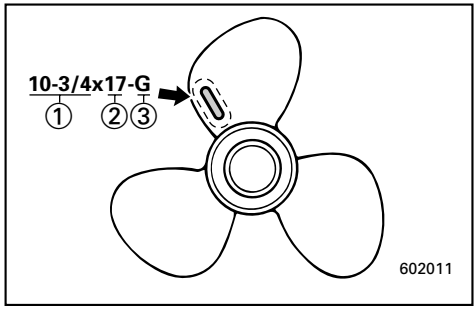
JMU01474

プロペラ

船外機の航走性能は、プロペラの選び方によって大きく影響を受けます。
不適切なプロペラは性能が引き出せないばかりではなく、重大な故障の原因にもなりかねません。
エンジンの回転数はプロペラサイズやボートの状態によって変わってきます。
全開エンジン回転数が規定範囲より高すぎたり低すぎたりした場合は、エンジンに悪影響をおよぼします。
指定された全開エンジン回転範囲に合わないプロペラが付いている場合は、ピッチの異なるプロペラを使って合わせます。
重負荷には、よりピッチの小さなプロペラを使って全開エンジン回転範囲に合わせます。
逆にピッチの大きなプロペラは、軽負荷用となります。
ボートの使用状態に最も適合するプロペラの選定は、ヤマハ取扱店にご相談して決めてください。

要　点

ボートが満載状態でスロットルを全開にした時に、エンジン回転数が仕様諸元で指定した全速回転範囲の中間値、またはそれ以上となるプロペラを選んでください。ボートが軽荷状態になったときには、指定回転範囲を越えないように、スロットルを調整してください。



スロットル全開航走時のエンジン回転範囲;第 4 章の”仕様諸元”をご覧ください。

① プロペラ直径(インチ)
② プロペラピッチ(インチ)
③ プロペラの種類(プロペラマーク)

プロペラの取り付け、および取り外しに関しては、第 4 章の“プロペラの点検”の項目をご覧ください。

JMU01213

始動安全装置

ヤマハ船外機または専用リモートコントロール装置には、ギヤが前進または後進に入っているときはエンジンの始動ができないように、安全装置が装備されています。エンジンを始動する際は、シフトを必ず中立(ニュートラル)にしてから行なってください。



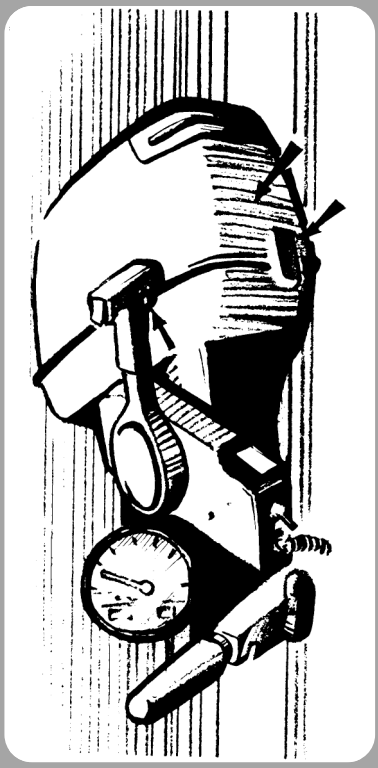
―メモ―



JMC00010

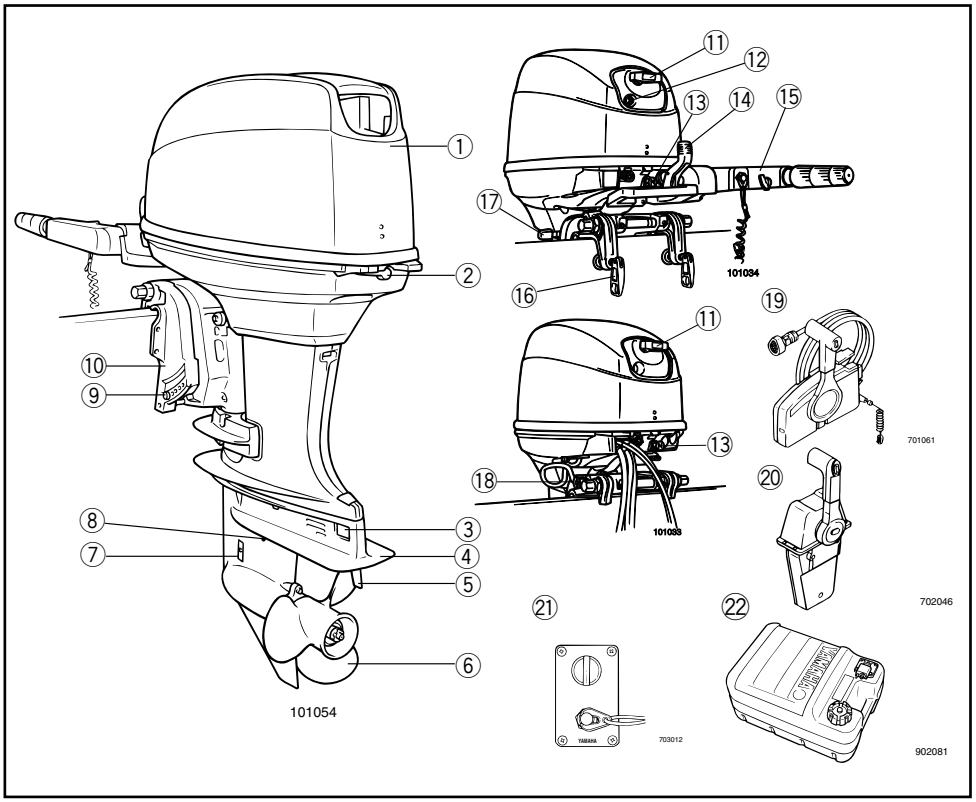
第2章
各部の名称と機能

主な構成部品.....2-1
操作系とその機能.....2-2
燃料タンク.....2-2
ギヤシフトレバー.....2-3
チョークノブ.....2-3
手動始動ハンドル.....2-3
エンジン始動ボタン.....2-3
ティラハンドル.....2-4
リモートコントロール.....2-6
ステアリングフリクション
調整レバー.....2-12
トリムタブ.....2-13
チルトピン.....2-13
チルトロック機構.....2-14
チルトサポートノブ.....2-14
チルトサポートバー.....2-14
トップカウル脱着レバー.....2-14
警告装置.....2-15
オーバヒート警告.....2-15



JMC10011

主な構成部品



① トップカウリング
② トップカウル脱着レバー
③ アノード
④ キャビテーションプレート
⑤ トリムタブ
⑥ プロペラ
⑦ 冷却水吸水口
⑧ 副冷却水吸水孔
*⑨ チルトピン
⑩ クランプブラケット
⑪ 手動始動ハンドル
*⑫ エンジン始動ボタン
⑬ チョークノブ
*⑭ ギヤシフトレバー
*⑮ ティラハンドル
*⑯ クランプスクリュ
*⑰ チルトロックレバー
*⑱ チルトサポートノブ
*⑲ サイドマウントリモートコントロールボックス
*⑳ トップマウントリモートコントロールボックス
*㉑ スイッチパネル（⑳とセット）
㉒ 燃料タンク

(注) 機種によっては、燃料タンク、リモコン関連、メータ類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっております。
詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

* 仕様により異なります。

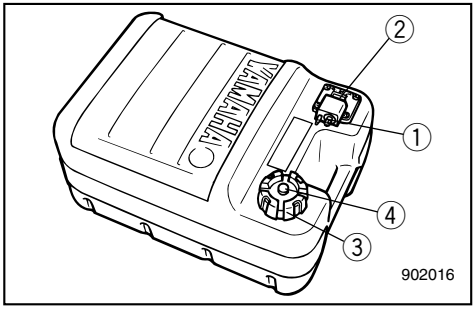
JMU00484

操作系とその機能

JMU01588

燃料タンク

ヤマハ船外機は、専用燃料タンクが用意されています。



① 燃料ホースコネクタ
② 燃料計（装備されている場合）
③ 燃料タンクキャップ
④ エアベントスクリュ（装備されている場合）

燃料タンク容量；
第 4 章の仕様諸元表を参照ください。

▲警 告

- **保管または係留時には、燃料タンクを空にして船から下ろしておいてください。**
- **使用後はエアベントスクリュを閉じてください。**

JMU00486

燃料ホースコネクタ

燃料ホースをつないだり、外したりするためのものです。

JMU00487

燃料計

燃料ホースコネクタに装備されています。燃料タンク内のおよその燃料残量を示します。

JMU00489

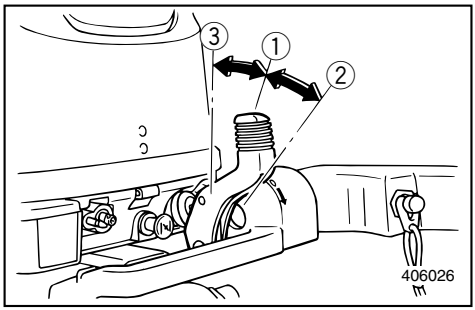
燃料タンクキャップ

燃料タンクの給油口のふたです。反時計方向に回すと緩みます。

JMU01424

エアベントスクリュ

燃料タンクキャップに付いています。
反時計方向に回すと緩み、燃料タンク内の圧力が大気開放されます。

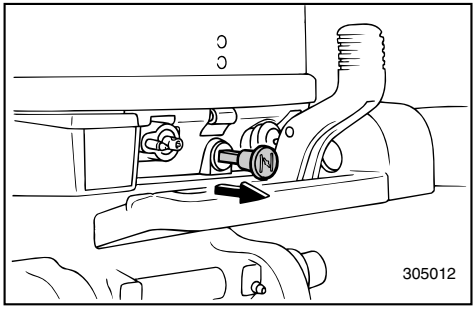


JMC25010

ギヤシフトレバー

前方(船首側)へ倒すと前進し、後方(船尾側)へ倒すと後進します。

① 中立(ニュートラル)
② 前進
③ 後進



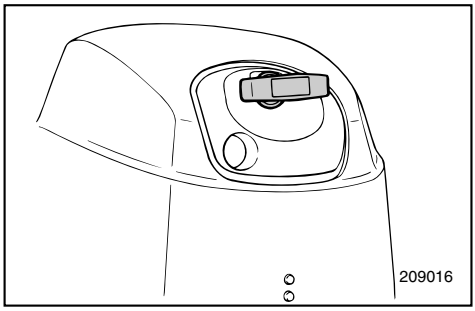
JMC42010

チョークノブ

ノブを引くことにより、冷えているエンジンの始動に必要な濃い混合気が供給されます。

要　点

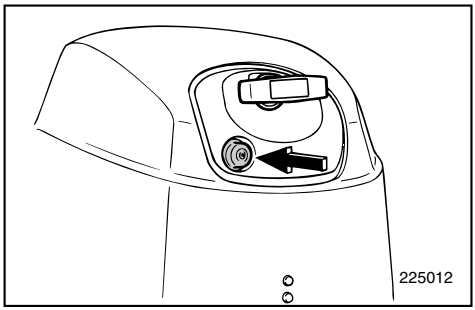
このチョークノブはリモートコントロールのチョークスイッチと同じ機能です。



JMC44010

手動始動ハンドル

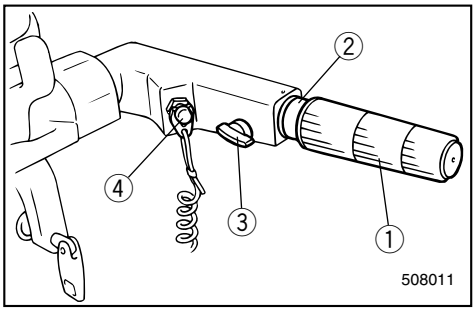
手動でエンジンを始動させるときに使います。
まず、ハンドルをゆっくりと引っかかりを感じるまで引きます。
そこから、後方へ一気に強くまっすぐに引いてエンジンを始動させます。



JMC46010

エンジン始動ボタン

黒いボタンを押している間、スタータモータが回りエンジンを始動させます。

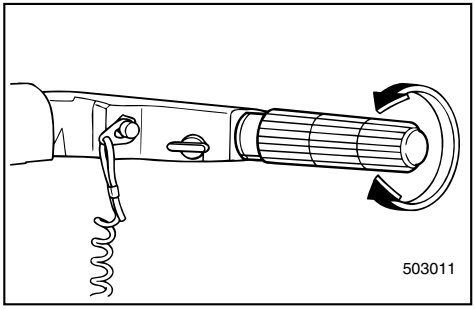


JMC60310

ティラハンドル

舵取り操作は、ティラハンドルを左右に動かして行ないます。また、次の機能が装備されています。

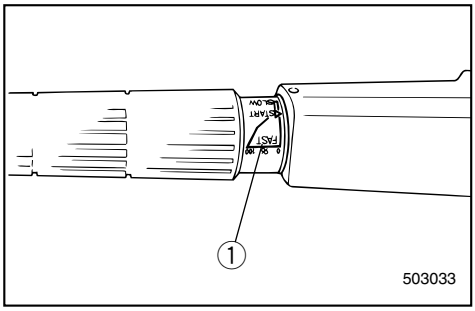
①スロットルコントロールグリップ
②スロットルインジケータ
③スロットルフリクション調整ノブ
④エンジン停止ボタン　/　緊急エンジン停止スイッチ



JMC40011

スロットルコントロールグリップ

ティラハンドルの先端にあります。
反時計方向に回せば加速し、時計方向に回せば減速します。

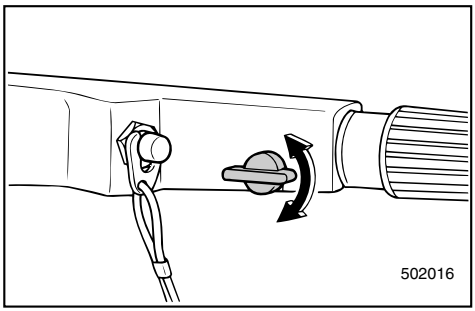


JMC40210

スロットルインジケータ

スロットル開度の目安を表示します。

① スロットルインジケータ



JMC64210

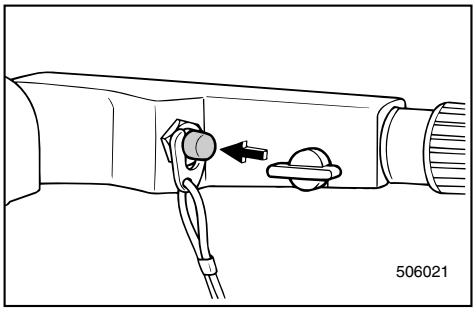
スロットルフリクション調整ノブ

スロットルコントロールグリップの動きの重さを調整するノブがティラハンドルに装備されています。
操船者の好みに合わせて、調整ができます。

重さ(抵抗)	ノブ
増やす	時計方向に回す
減らす	反時計方向に回す

⚠警　告

調整ノブは、締めすぎないようにしてください。スロットルコントロールグリップの動きが重すぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。



JMC27110

エンジン停止ボタン

赤いエンジン停止ボタンを押すことにより、エンジンを停止することが出来ます。

JMC28210

緊急エンジン停止スイッチ

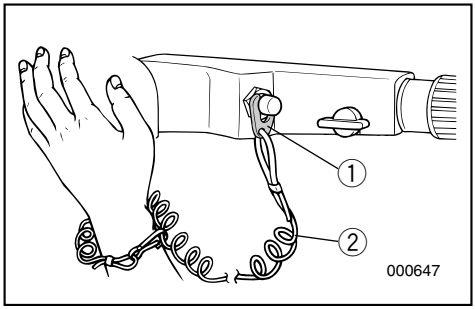
航走中に操船者が落水等で操船席から放り出されたときに、カールコードが伸び、ロックプレートが外れてエンジンが停止するようになっています。この目的は、船の暴走を防ぐためです。カールコード端のロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに取り付けなければエンジンの運転はできません。カールコードは確実に操船者の衣服や手、足に取り付けてください。

⚠警　告

- **操船は、カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に取り付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所には、カールコードを取り付けないでください。**
  操船に支障をきたすような場所へは、取り付けないでください。
- **航走中は、カールコードが身体や周辺の機器等に引っかかって不意にロックプレートが外れないようにしてください。もし外れると、急減速して操船に支障をきたすばかりでなく、同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

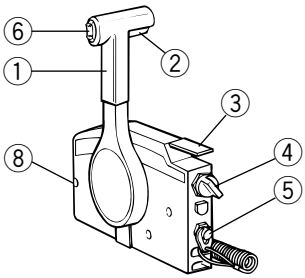
要　点

ロックプレートが外れた状態では、エンジンの始動はできません。

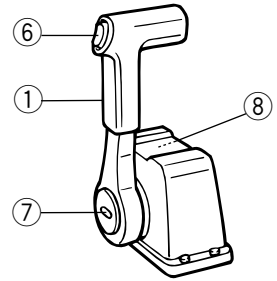


① ロックプレート
② カールコード

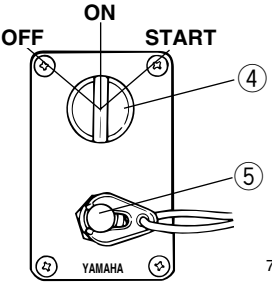
A



B



C



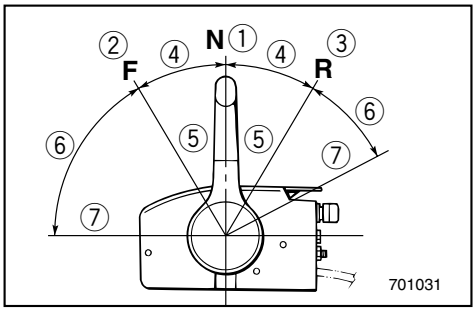
JMC80212

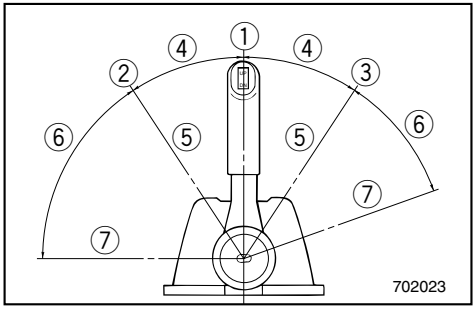
リモートコントロール

シフト、スロットル、および電動の遠隔操作等が行なえます。

① リモコンレバー
② ニュートラルインタロック
③ ニュートラルスロットルレバー
④ エンジンスイッチ/チョークスイッチ
⑤ 緊急エンジン停止スイッチ
⑥ パワートリム/チルトスイッチ
⑦ フリーアクセレータボタン
⑧ リモコンレバーフリクション調整スクリュ

A サイドマウントリモートコントロールボックス
B トップマウントリモートコントロールボックス
C スイッチパネル（Bとセット）



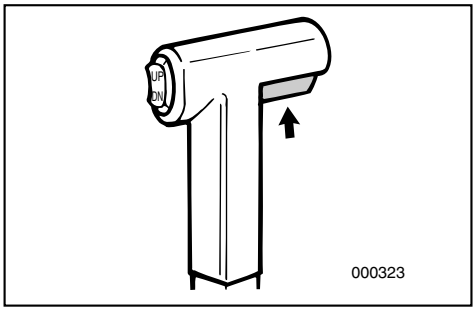


JMC50010

リモコンレバー

レバーを中立（ニュートラル）から約35°（軽く止まる位置）船首側へ倒せば前進に、船尾側へ倒せば後進にギヤが入り最低速回転で航走をはじめます。更に、そこからレバーを倒していくと加速をはじめます。

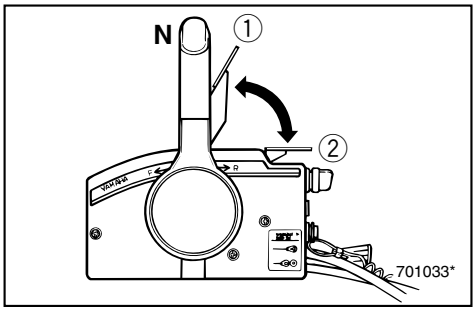
① 中立（ニュートラル）
② 前進
③ 後進
④ シフト域
⑤ スロットル全閉
⑥ スロットル域
⑦ スロットル全開



JMC50110

ニュートラルインタロック

リモコンレバーを中立（ニュートラル）の位置で保持します。
前進や後進へシフトする際は、最初に赤色ノブを引き上げてからリモコンレバーを動かします。



JMC50210

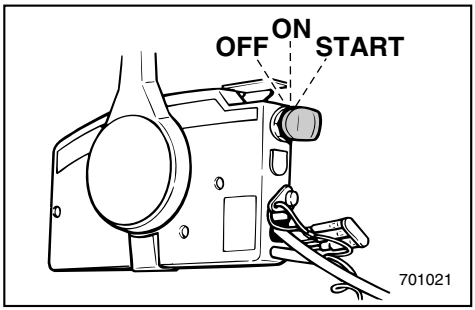
ニュートラルスロットルレバー

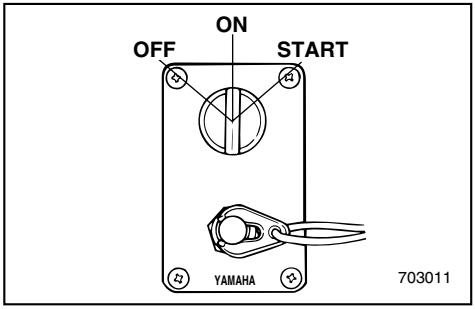
中立（ニュートラル）の状態で、スロットルの開閉操作がおこなえます。

要　点

ニュートラルスロットルレバーは、リモコンレバーが中立（ニュートラル）の位置でなければ操作できません。また、リモコンレバーはニュートラルスロットルレバーが全閉の状態でなければ操作できません。

① 全開
② 全閉





JMC48110

エンジンスイッチ

エンジンの始動、停止の操作が行なえます。作動は次のようになっています。

● OFF

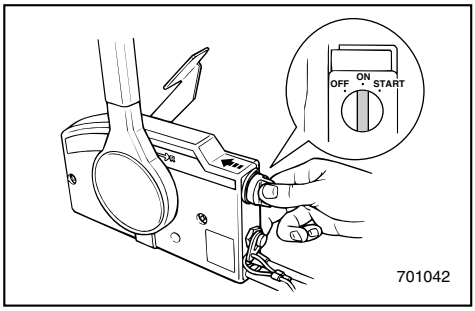
電気回路が遮断されエンジンが停止します。(キーが抜ける状態です。)

● ON

電気回路が短絡されアクセサリ等の使用ができます。
(キーは抜けません。)

● START

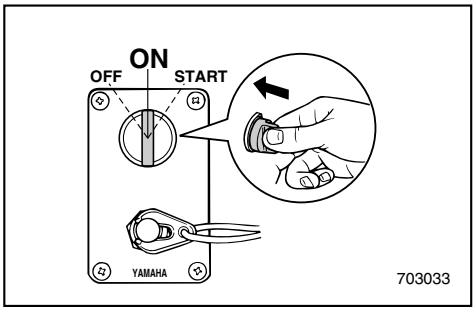
スタータモータが回って、エンジンが始動します。
(キーを離すと、自動的に"ON"の位置に戻ります。)



JMC50310

チョークスイッチ

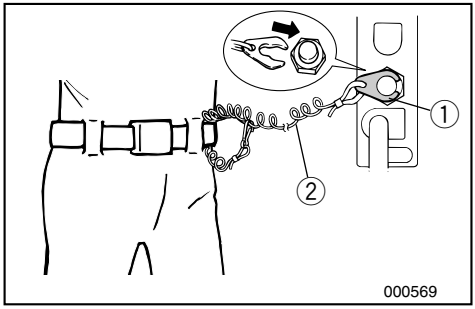
エンジンスイッチを"ON"または"START"の位置で押し込むと、エンジン始動時に必要な濃い混合気が供給されます。
(押す操作を止めると自動的に戻り、チョーク機能の作動は解除されます。)

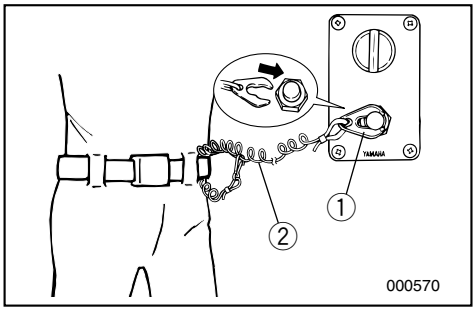


JMC28210

緊急エンジン停止スイッチ

航走中に操船者が落水等で操船席から放り出されたときに、カールコードが伸び、ロックプレートが外れてエンジンが停止するようになっています。この目的は、船の暴走を防ぐためです。カールコード端のロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに取り付けなければエンジンの運転はできません。カールコードは確実に操船者の衣服や手、足に取り付けてください。





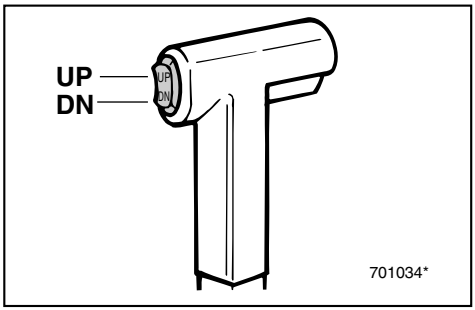
⚠警　告

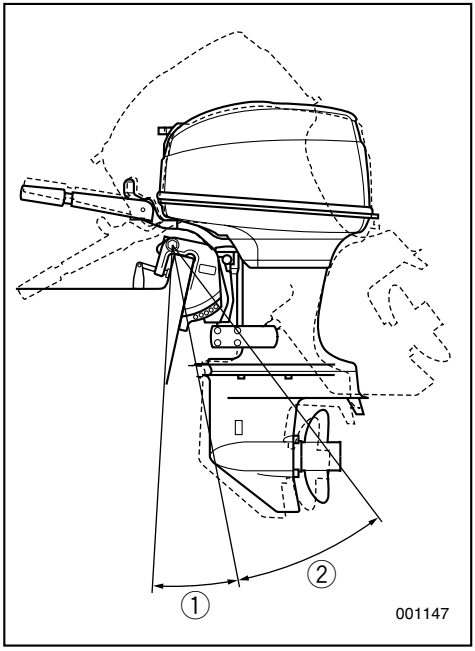
- **操船は、カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に取り付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所には、カールコードを取り付けないでください。**
  操船に支障をきたすような場所へは、取り付けないでください。
- **航走中は、カールコードが身体や周辺の機器等に引っかかって不意にロックプレートが外れないようにしてください。もし外れると、急減速して操船に支障をきたすばかりでなく、同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

要　点

ロックプレートが外れた状態では、エンジンの始動はできません。

① ロックプレート
② カールコード





JMD20315

パワートリム/チルトスイッチ

ボートトランサムからの船外機の角度が調整できます。

"UP"側のスイッチを押している間は、トリム域からチルト域へと角度が上がっていきます。

"DN"側のスイッチを押している間は、チルト域からトリム域へと角度が下がっていきます。

スイッチから手を離すと、その角度を保持して止まります。

⚠警　告

過度なトリム角度の調整を行なうと、ボートの安定性や操船に支障をきたし、事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じたときは、航走スピードを落としてトリム角度の再調整をおこなってください。

① トリム域
② チルト域

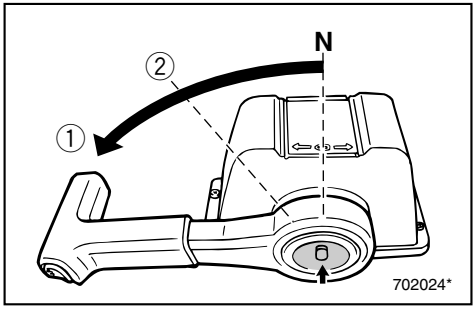
JMC81110

フリーアクセレータボタン

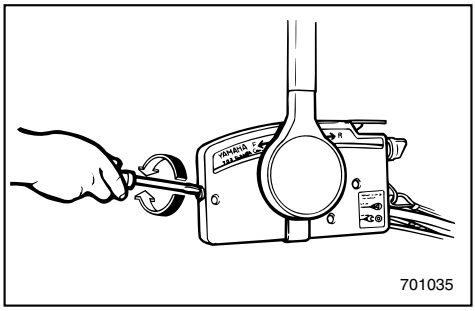
中立（ニュートラル）の状態で、このボタンを押したままリモコンレバーを前進側へ倒すことでスロットルの開閉操作が行なえます。

要　点

- フリーアクセレータボタンは、リモコンレバーが中立（ニュートラル）の位置でなければ操作できません。
- フリーアクセレータボタンを押した状態でも、リモコンレバーを約35°以上倒さなければスロットルは開きません。
- フリーアクセレータボタンは、リモコンレバーを中立（ニュートラル）の位置に戻せば自動的に戻り、通常の前進や後進の操作ができます。



① 全開
② 全閉



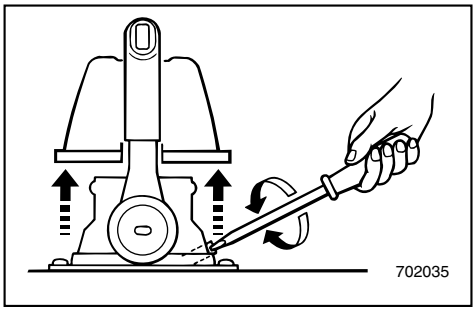
JMC87011

リモコンレバーフリクション調整スクリュ

サイドマウントリモートコントロールボックスは前面に、トップマウントリモートコントロールボックスはカバーを外したところにあります。

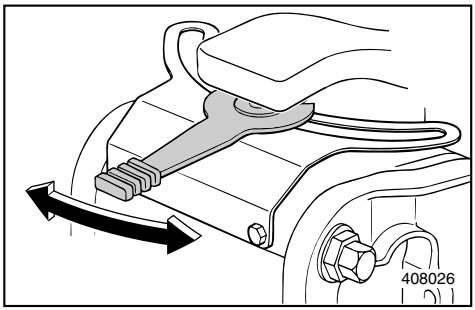
操船者の好みに合わせて、リモコンレバーの動きの重さが調整できます。

スクリュ	リモコンレバーの動き
時計方向に回す	重たくなる
反時計方向に回す	軽くなる



⚠警　告

調整スクリュは、締めすぎないようにしてください。リモコンレバーの動きの抵抗が大きすぎると、操作に支障をきたし事故につながる恐れがあります。



JMD00410*

ステアリングフリクション調整レバー

ステアリングの動きの抵抗を調整するレバーがブラケットに付いています。操船者の好みに合わせて調整が出来ます。

調整レバー	抵抗
左舷側へ回す	増える(重たくなる)
右舷側へ回す	減る(軽くなる)

⚠警　告

調整レバーは締めすぎないようにしてください。
ステアリング操作の抵抗が大きすぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。

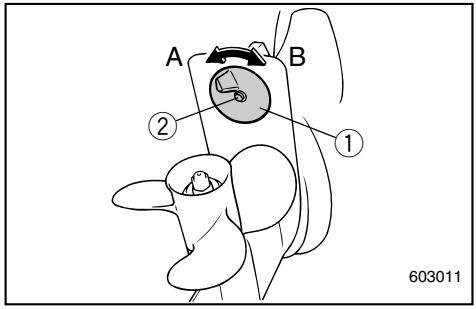
JMD04011

トリムタブ

航走中にステアリングが左、または右にとられる場合に、その調整をするためのものです。

⚠警　告

トリムタブの調整が悪いと操船に支障をきたします。トリムタブを交換した場合等は、試走してステアリングの状態を確認してください。トリムタブの調整等をおこなった後は、ボルトを確実に締めてください。



① トリムタブ
② ボルト

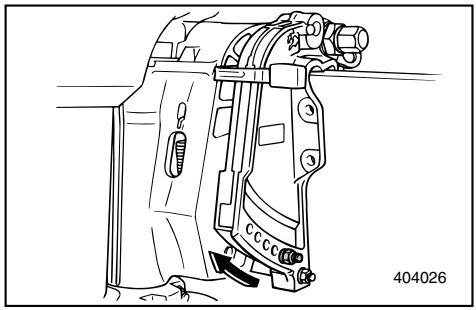
ステアリング	トリムタブのフィン
左舷にとられる場合	左舷側へ回すⒶ
右舷にとられる場合	右舷側へ回すⒷ

⚠注　意

トリムタブは電食からエンジンを保護するために、アノードの役目を兼ねています。決してペンキ等を塗らないようにしてください。

要　点

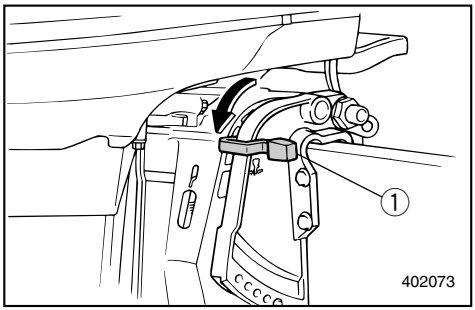
トリムタブは、使用頻度の多い航走スピードに合わせて調整してください。
航走スピードやトリム角度が変われば、トリムタブの効果も変化します。



JMD06011

チルトピン

チルトピンの位置を変えることで、いっぱいまで船外機をチルトダウンした際の船外機トリム角度を変えることができます。

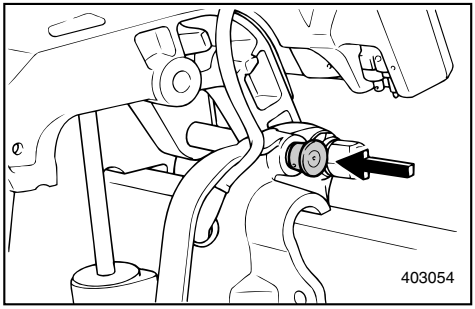


JMD44110

チルトロック機構
マニュアルチルト仕様

後進時にプロペラのはね上がりを防止するために、チルト機構をロックするためのものです。チルトロックバーが下の位置ではロック状態となり、上の位置では解除状態となります。

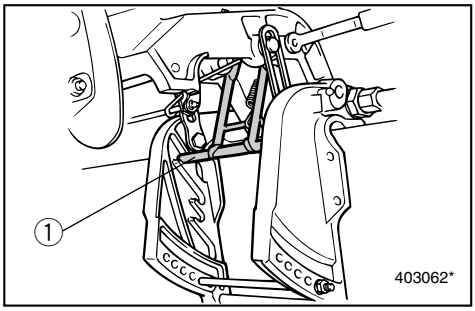
① チルトロックレバー



JMD47010

チルトサポートノブ
パワートリム/チルト仕様

船外機をいっぱいまでチルトアップした状態を保つ時に、チルトサポートノブを押し込んで保持します。

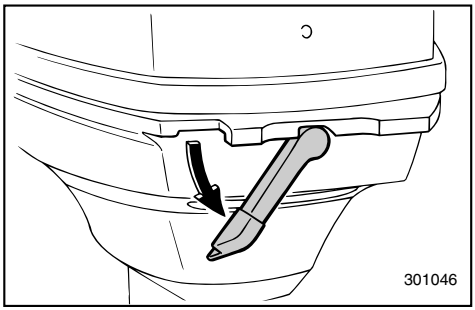


JMD48010

チルトサポートバー
マニュアルチルト仕様

チルトアップした状態で船外機を保持します。

① チルトサポートバー



JMD62011

トップカウル脱着レバー

トップカウルを外す時は、背面のロックレバーを回してロックを解除し、トップカウルを上へ持ち上げて外します。
取り付けは逆の手順で行ないます。
その時に、ゴムのシールがきちんとはまっていること、およびロックが確実にされていることを確認してください。

JMD80010

警告装置

⚠警　告

警告機構が作動したときは、エンジンを停止してください。
原因の究明とその処置ができない場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

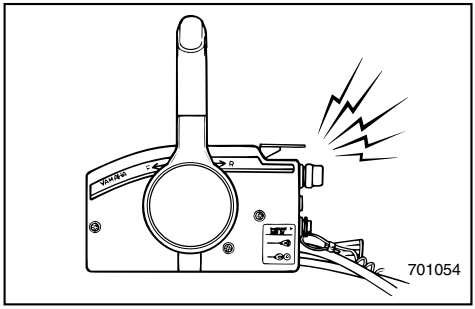
JMD82012

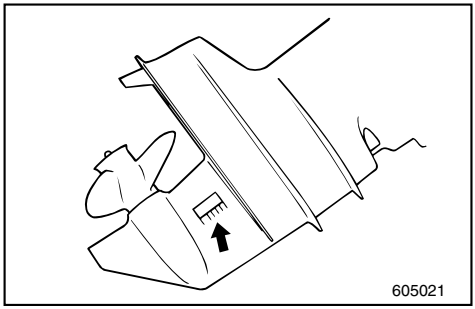
オーバヒート警告

この船外機にはオーバヒートを知らせる警告装置が装備されています。エンジンの温度が異常に上昇したときには、次のような警告を発します。

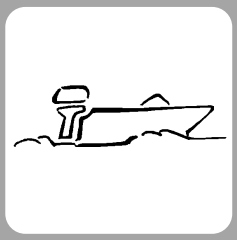
(○):機能有り　(—):機能無し

警告方法	ティラハンドル仕様	リモートコントロール仕様
エンジンの回転数が自動的に2,000回転付近まで低下します	○	○
オーバヒート警告灯が点灯します	—	—
ブザーが鳴ります	—	○





オーバヒート警告が作動した場合は、エンジンを停止して冷却水給水口の詰まりを点検してください。





JMF00010

第3章
運転と操作

船外機の取り付け 3-1
ボートトランサムへの取り付け 3-2
燃料とオイルの給油 3-4
燃料タンクへの給油 3-4
ガソリンとエンジンオイルの混合 3-5
出港前の点検 3-6
慣らし運転 3-7
エンジン始動 3-8
暖機運転 3-14
前進・後進 3-15
エンジン停止 3-17
船外機トリム角度 3-18
トリム角度の調整 .....3-19、3-20
チルトアップ・ダウン 3-22
浅瀬航走 3-25
他の航走状況 3-26
塩水での使用 3-26
泥水での使用 3-26

JMF10010

船外機の取り付け

⚠警　告

船外機の取り付け高さが不適切、あるいは水の流れを遮るような取り付けを行なった場合には、航走中にスプレー(飛沫)が揚がることがあります。
スプレー(飛沫)を揚げながら航走を続けた場合は、エンジンに大きな損傷をきたす恐れがありす。

要　点

水上でテストをする場合は、最大積載状態で船体の浮力を調べてください。
その状態でエンジンを停止したときに、波が打ち寄せてきてもエンジン内部に水が逆流してこないように、補助排気孔が水面よりも十分に高い位置にあることを確かめてください。

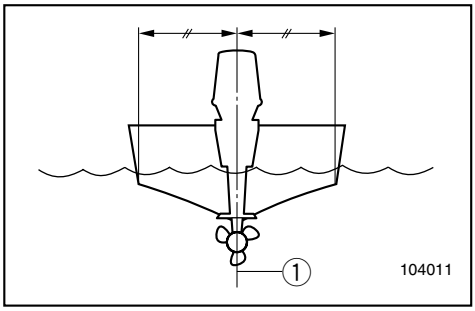
JMF12012

ボートトランサムへの取り付け

⚠警　告

- **船外機の取り付けが不適切な場合は、操船が困難になるばかりでなく操船不能に陥ったり、また火災等の原因となる恐れがあります。**
  - **ボルトを使って取り付ける場合は、必ずヤマハ取扱店で行って下さい。**
  - **クランプハンドルを使って取り付ける場合は、ヤマハ取扱店で取り付け方の指導を受けてから行なってください。**
- **船外機と船体の組み合わせは多種多様なため、それぞれの仕様によって取り付け方法は必ずしも同一ではありません。ここでの説明は標準的な参考としてください。**

船外機はボートトランサムの中央(船体中心)に取り付け、その時にボートの安定性が良いことを確かめます。さもなければ、操船に支障をきたします。
ボートの仕様等によって取り付けが困難な場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。



⚠警　告

船体の最大搭載馬力を越える船外機の取り付けは、ボートの安定性を欠きますので絶対に行わないでください。
最大搭載馬力が不明なときは、船体の製造メーカーにお問い合わせください。

① 船体中心

JMF13010

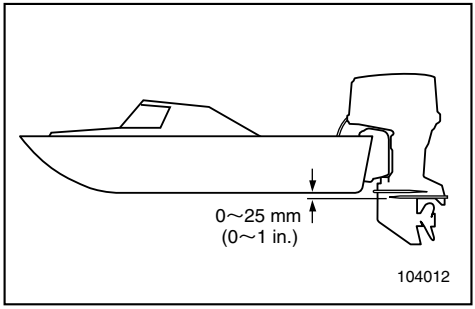
取り付け高さ

効率よく航走するためには、船外機と船体の水の抵抗を出来る限り減らす事が必要です。従って、船外機の取り付け高さは水の抵抗に大きく影響します。

取り付け高さが高すぎる場合は、航走中にキャビテーションをおこし推進力が低下すると同時に、エンジン回転数が異常に高くなりオーバーヒート等の原因となる恐れがあります。

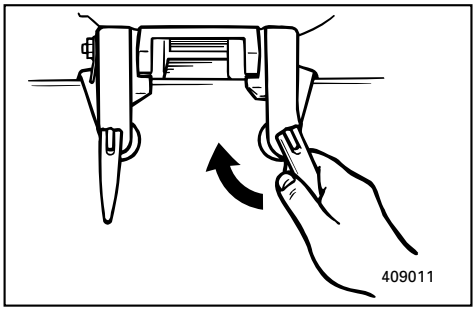
取り付け高さが低すぎる場合は、水の抵抗が増え推進効率が悪くなります。

一般的には、船外機キャビテーションプレートの位置が船底（キール）とそこから25mm下げた間に来るように取り付けます。



要　点

船外機とボートの仕様の組み合わせによっては、最良の取り付けの高さは異なってまいります。試走して最良の取り付け高さを決めてください。



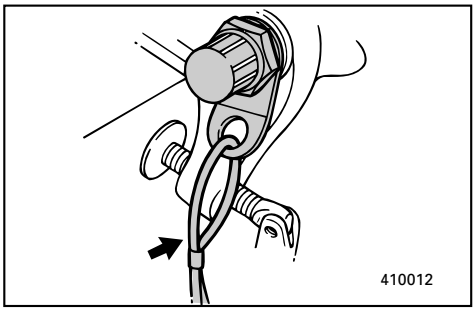
JMU00607

船外機の取り付け

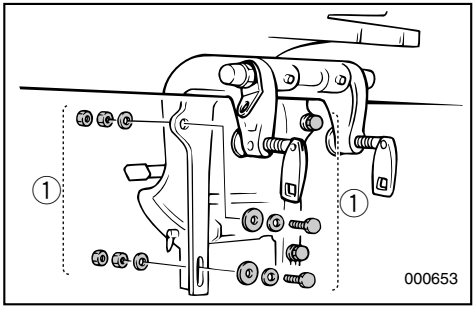
1) 船外機をボートトランサムの中央に持ってゆきます。クランプスクリュを確実に締め込みます。
   運転中に振動でクランプスクリュが緩まないように時々、締まり具合を点検します。

⚠警　告

クランプスクリュが緩むと、船外機がボートトランサム上を移動したり、脱落したりします。その結果、操船に支障をきたし事故の原因となる恐れがあります。
クランプスクリュは、確実に締め付けてください。



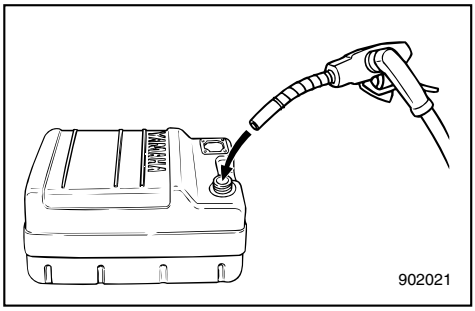
2) 船外機が脱落したときのためにロープ等を準備し、一方の端をエンジン側のロープアッタチメントに結び、他方を船体の丈夫な場所に結びます。そうすることによって何らかの原因で船外機がボートトランサムから脱落した場合、回収が可能です。
専用取り付け部品(ボルト等)の同梱されている機種は、ヤマハ取扱店にて専用取り付け部品を使ってボートトランサムに固定されることをお奨めいたします。



⚠警 告

専用取り付け部品以外のご使用は、おやめください。

① 専用取り付け部品



JMU00608

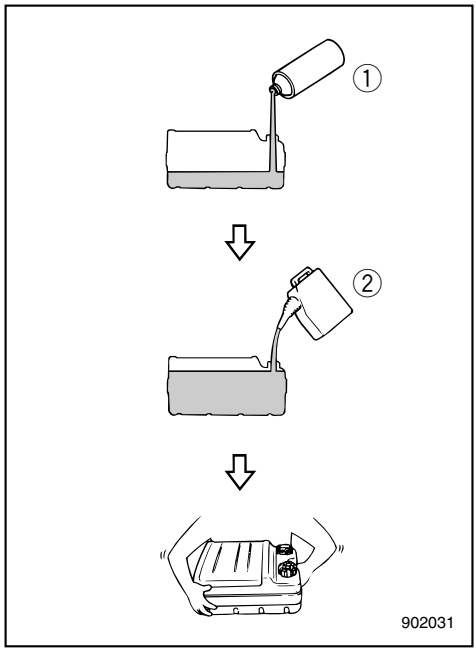
燃料とオイルの給油

JMU00609

燃料タンクへの給油

1) 燃料タンクキャップを外します。
2) 注意しながら給油します。
3) 給油後は確実に燃料タンクキャップを締めます。こぼれた燃料はふきとってください。

燃料タンクの容量;
第4章の仕様諸元をご参照ください。



JMF35012

ガソリンとエンジンオイルの混合

混合仕様

混合比	エンジンオイル : ガソリン
慣らし運転期間中	1 : 25
慣らし運転終了後	1 : 50

① エンジンオイル
② ガソリン

1) エンジンオイルとガソリンを所定の割合で燃料タンクに注ぎます。
2) よくふってかき混ぜます。

⚠注　意

- **推奨外のエンジンオイルのご使用は避けてください。**
- **エンジンオイルがよく混ざった状態の燃料をご使用ください。**
- **エンジンオイルの混ざりが悪かったり、混合比率が不適切なものは、次のような不具合が発生する恐れがあります。**
  - **混合比率が低い場合は、オイル不足によるエンジンの焼き付きのような大きな損傷の原因となる恐れがあります。**
  - **混合比率が高い場合は、オイル過剰によるスパークプラグの汚損、排気白煙の多量発生やエンジン内部へのカーボン堆積等の原因となる恐れがあります。**

混合比	1:25		1:50	
エンジンオイル	0.4L	1L	0.4L	1L
ガソリン	10L	25L	20L	50L

JMF40013

出港前の点検

⚠警　告

出港前点検中に1つでも不具合が見つかったときは、点検整備を済ませてから出港してください。事故につながる恐れがあります。

⚠注　意

陸上ではエンジンを始動させないでください。オーバヒートや重大な損傷の原因になります。

JMF41110

燃料

- 燃料が満タンになっていることを確認してください。
- 燃料漏れがないことを確認してください。
- 燃料ホースの接続が確実にできていることを確認してください。
- 専用燃料タンクの場合は水平な場所に置き、燃料ホースが折れ曲がったり鋭敏なものと接触していないことを確認してください。

JMF42110

オイル

- 航行に必要なオイル量があることを確認してください。

JMF43010

作動系

- スロットル、シフト、ステアリングが正しく作動することを確認してください。
- 各接続部の緩みや取り付け状態を確認してください。
- 水上に係留してエンジン始動/停止スイッチの作動を確認してください。

JMF43511

エンジン本体

- エンジン取り付けボルトの緩みや、取り付けの状態を点検してください。
- プロペラの損傷を点検してください。

JMF50012

慣らし運転

新しいエンジンは、摺動部品の表面のなじみを出すために、慣らし運転の期間が必要です。
慣らし運転を正しく行なうことにより、初期性能をいかん無く発揮し、エンジン構成部品の寿命も延びます。

⚠注　意

慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が短くなるばかりではなく、エンジンに損傷を与える原因となる恐れがあります。

慣らし運転時間；のべ10時間

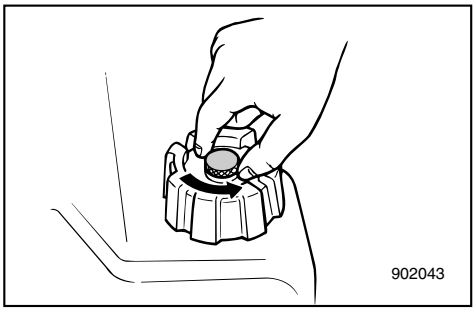
慣らし運転中の混合比；"ガソリンとオイルの混合"の項目をご覧ください。

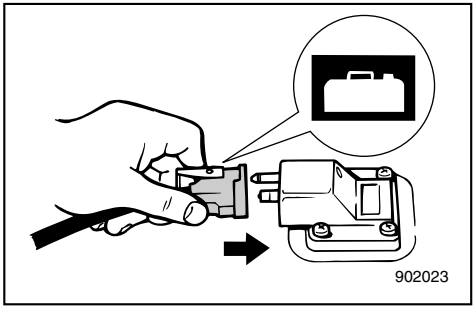
JMF53010

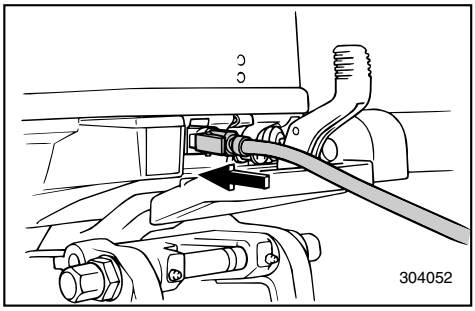
慣らし運転の手順

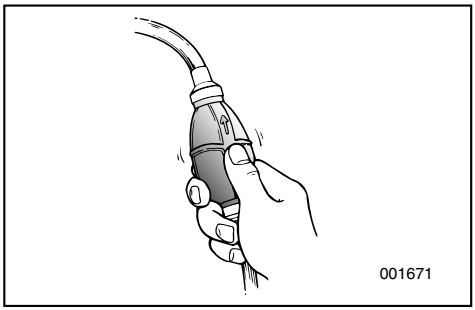
航走しながら負荷をかけて行ないます。

1) 最初の10分間
   最低速回転で使ってください。
2) 次の50分間
   スロットルコントロールグリップ開度を約半分で使ってください。
   軽量なボートの場合は、エンジン回転が一気に上がることがあります。その時は、ただちにスロットルコントロールグリップを絞りエンジン回転を下げて使ってください。
3) 次の2時間
   スロットルコントロールグリップ開度を4分の3付近で使ってください。
   同時に10分間に1分間の割合で全開航走を繰り返してください。
4) 残りの7時間
   5分間を越えない範囲で、全開航走を繰り返してください。
5) 10時間以降
   通常にご使用できます。
   ガソリンとオイルの混合比は、標準に戻してください。
   混合比は、"ガソリンとオイルの混合"の項目をご覧ください。









JMF58011

エンジン始動

⚠警　告

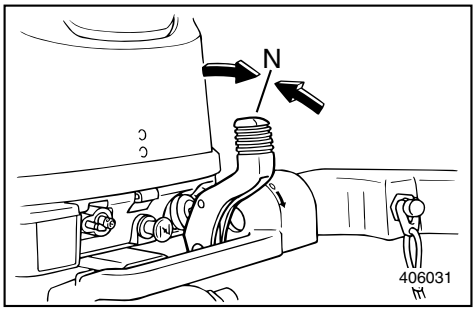
エンジン始動前には、ボートを確実に係留し、付近に障害物等や遊泳者が居ないことを確認してください。

⚠警　告

燃料ホースコネクタを接続する時は、燃料がにじみ出たり、燃料の揮発蒸気が発生することがあります。タバコ等の火気や火種になるようなものを近づけないでください。

1) 燃料タンクキャップにエアベントスクリュが装備されているものは、2～3回緩めます。
2) 燃料ホースコネクタの有る機種は、燃料ホースを確実に接続します。また、燃料タンク側にも同様に接続します。

3) プライミングポンプの矢印を上に向け、固くなるまで握ったり離したりを繰り返します。



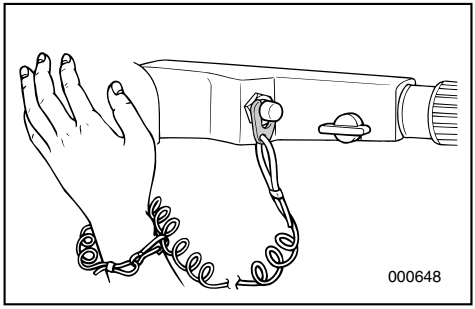
JMU01525

ティラハンドル仕様の手順

4) ギヤシフトレバーを中立(ニュートラル)にします。

要　点

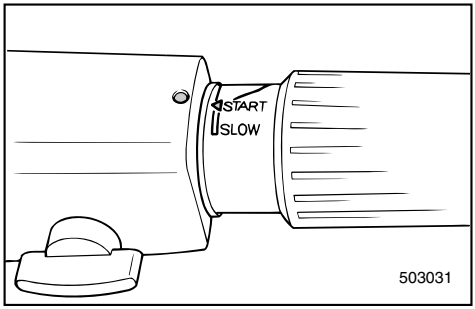
始動安全装置が作動するため、中立(ニュートラル)でなければエンジンの始動は出来ません。



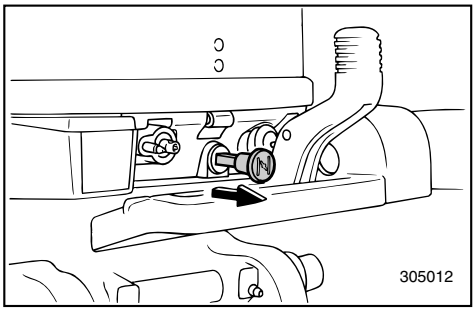
5) カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に着け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。

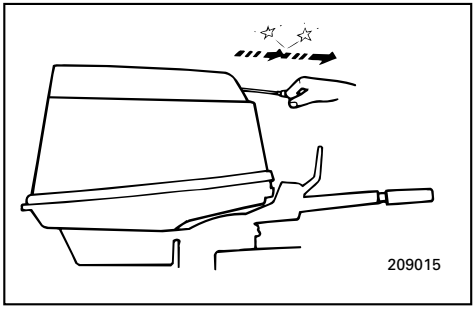
⚠警　告

- **操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**



6) スロットルコントロールグリップを始動位置にします。





JMF63110

手動始動の場合

7) エンジンが冷えているときは、チョークノブをいっぱいに引きます。
エンジン始動後は、チョークノブをもとの位置まで戻します。

要　点

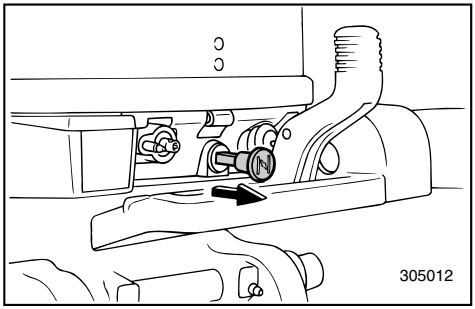
- 負荷運転を行なった直後等の再始動時には、チョークノブを引く必要はありません。
- チョークノブを引いたままの状態にしておくと、エンジンが停止してしまいます。

8) 抵抗を感じるまで、手動始動ハンドルをゆっくりと引きます。そこから、真後ろに一気に強く引いてエンジンを始動させます。

要　点

1回で始動しない場合は、同じ操作を繰り返します。4～5回行なっても始動しない場合は、第5章の”故障と対策”の項目を参照ください。

9) エンジン始動後は、手動始動ハンドルをゆっくりと元の場所に戻します。



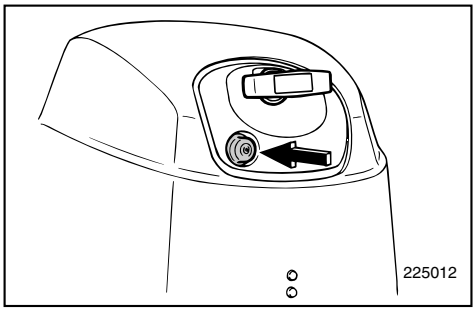
JMF63510*

電動始動の場合

7) エンジンが冷えているときは、チョークノブをいっぱいに引きます。
エンジン始動後は、チョークノブをもとの位置まで戻します。

要　点

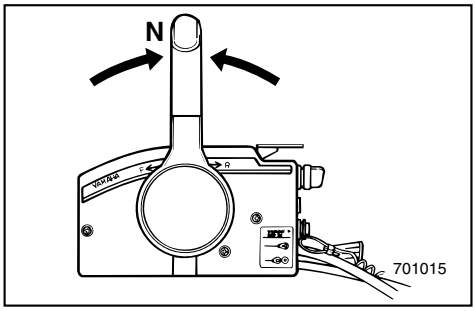
- 負荷運転を行なった直後等の再始動時には、チョークノブを引く必要はありません。
- チョークノブを引いたままの状態にしておくと、エンジンが停止してしまいます。

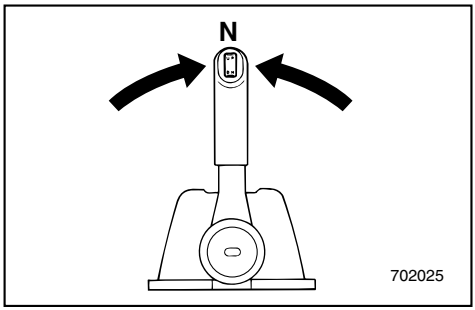


8) エンジン始動ボタンを押してエンジンを始動させます。
9) エンジン始動後は、ただちにボタンを離します。

⚠注　意

- **スタータモータは、連続して5秒以上回さないでください。スタータモータを5秒以上連続して回すと、バッテリが上がりエンジンが始動できなくなる恐れがあります。5秒以内でエンジンが始動しない時は、10秒待ってからもう一度行なってください。**
- **エンジン運転中は、エンジン始動ボタンを押さないでください。**





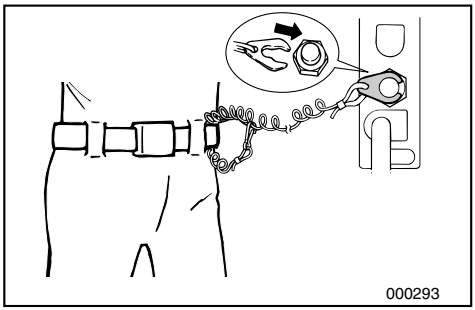
JMF65010*

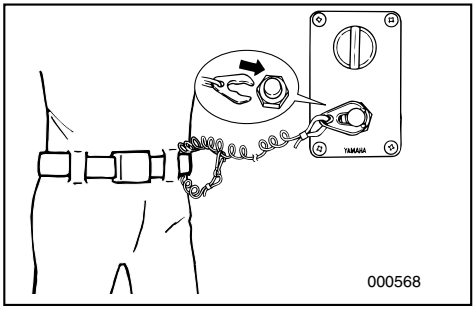
リモートコントロール仕様の始動手順

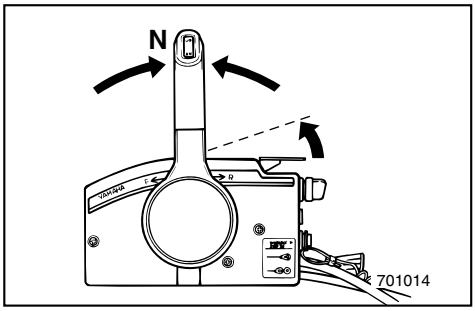
4) リモコンレバーを中立(ニュートラル)の位置にします。

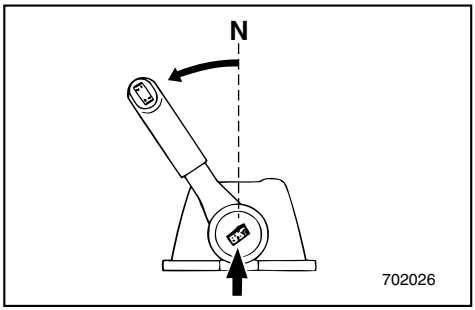
要　点

始動安全装置が作動するため、中立(ニュートラル)の状態でなければ、エンジンの始動はできません。









5) カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足にしっかりと付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。

⚠警　告

- **操船中は、カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所には、カールコードを付けないでください。操船に支障をきたすような場所へは、取り付けないでください。**
- **航走中は、カールコードが身体や周辺の機器等に引掛って不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、もし外れると急減速して同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

6) エンジンスイッチを"ON"の位置まで回します。

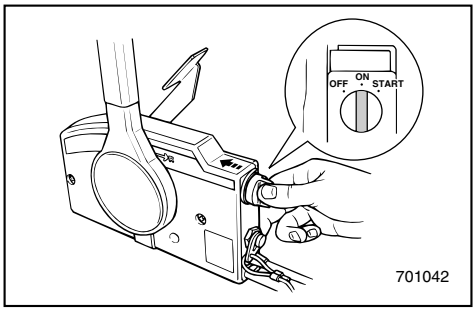
JMF66311*

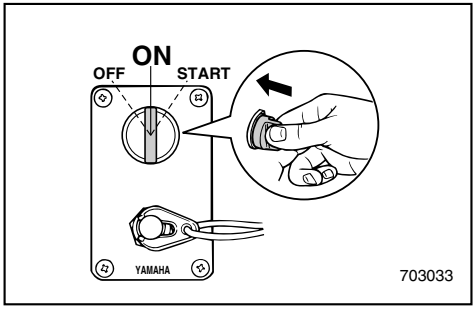
電動始動の場合

7) ニュートラルスロットルレバーまたはフリーアクセレータを使って、中立(ニュートラル)状態で少しスロットルを開けます。
エンジン始動後は、すみやかにスロットルを閉じます。

要　点

ニュートラルスロットルレバー/フリーアクセレータは、リモコンレバーが中立(ニュートラル)の状態からでなければ作動しません。

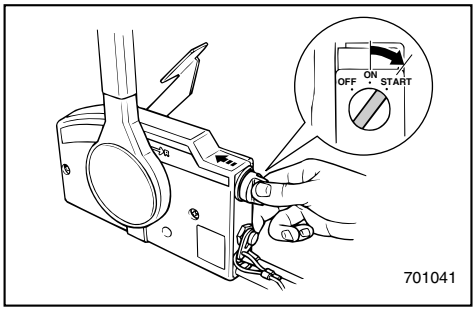


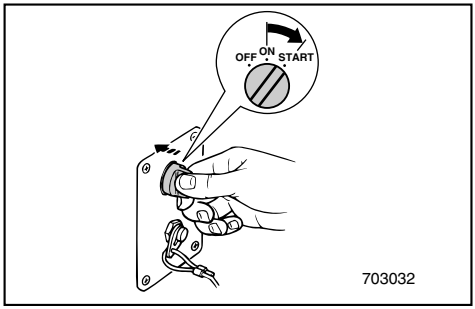


8) エンジンスイッチを押し込み、その状態を保持してチョーク機構を作動させます。
(押す操作を止めると、自動的に元の位置に戻りチョーク機構の作動は解除されます。)

要　点

- 負荷運転を行なった直後等のエンジン再始動時には、チョーク機構を作動させる必要はありません。
- 船外機本体側のチョークノブをいっぱいまで押し込んでいなければ、チョーク機構は作動しません。





9) エンジンスイッチを"START"の位置まで回すと、スタータモータが回りはじめます。
10) エンジン始動後は、ただちにエンジンスイッチを"ON"の位置に戻します。また、スイッチの押す操作を止めるとチョーク機構の作動は解除されます。

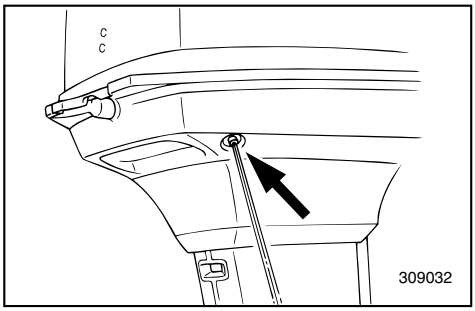
⚠注　意

- **スタータモータは、連続して5秒以上回さないでください。スタータモータを5秒以上連続して回すとバッテリが上がり，エンジンが始動できなくなる恐れがあります。5秒以内でエンジンが始動しない時は、"ON"の位置に戻して10秒待ってからもう一度行ってください。**
- **エンジン運転中は、エンジンスイッチを"START"の位置にしないでください。**

JMG00010*

暖機運転

1) エンジン始動後は、3分間以上アイドリング（無負荷最低速運転）状態で運転してエンジンを暖めてください。（暖機運転を怠るとエンジンの寿命が短くなることが考えられます。）
2) 冷却水点検孔から勢いよく水が出ていることを確認してください。



⚠注　意

冷却水点検孔から勢いよく水が出ている状態は、ポンプが冷却水をくみ揚げエンジン内を循環させていることを示します。冷却水点検孔から水が出ていない時は、オーバヒートによる大きな損傷の原因となりますので、使用を中止してください。
冷却水吸水口が詰まっている場合は、エンジンを停止させてから取り除いてください。回復しない時は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

JMG20111

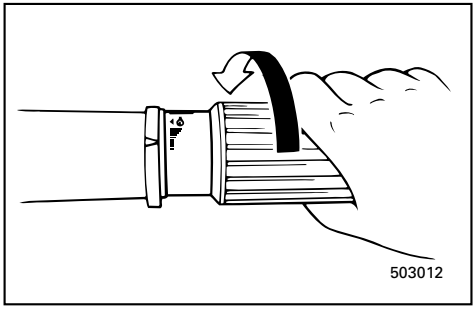
前進・後進

⚠警　告

前進、後進をする前には、付近に遊泳者や障害物等が無いことを確認してください。

⚠注　意

前進、後進の操作を行なうときは、エンジン回転を最低速回転の状態まで下げてから行なってください。

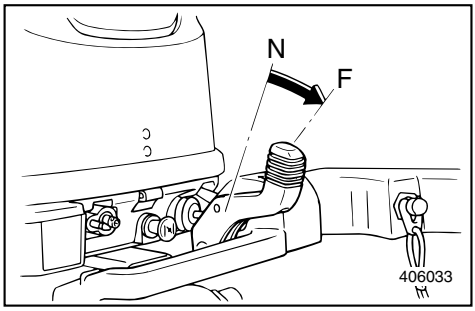


JMG22310

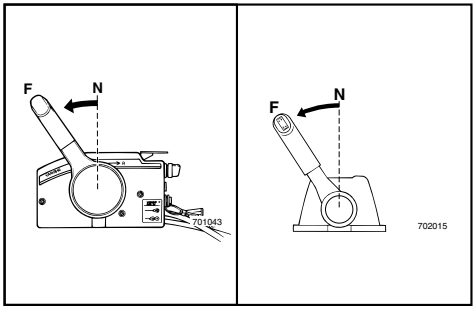
前進

ティラハンドル仕様

1) スロットルコントロールグリップを全閉の状態にします。



2) すみやかにギヤシフトレバーを前進側(船首側)へ倒します。



リモートコントロール仕様

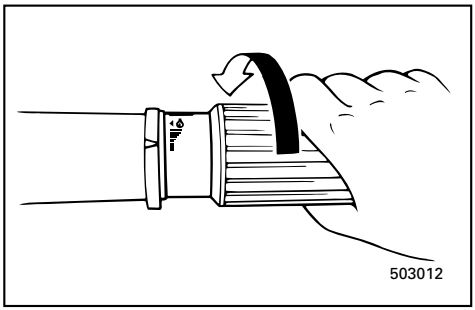
ニュートラルインタロック(サイドマウント仕様)を引き上げ、すみやかにリモコンレバーを前進側(船首側)へ倒します。

JMG33610*

後進

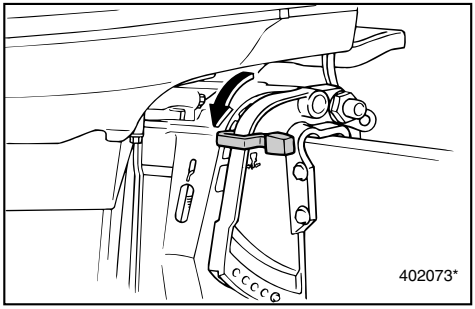
⚠警　告

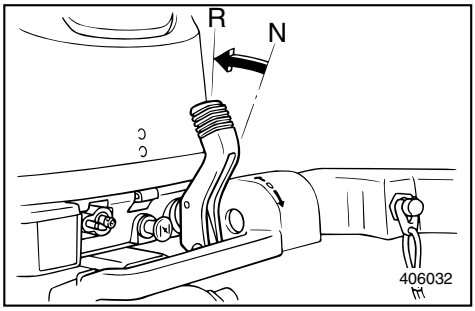
後進する際は、ゆっくりと行なってください。
スロットルを半分以上、開けないでください。ボートが不安定になり操船に支障をきたし、事故につながる恐れがあります。



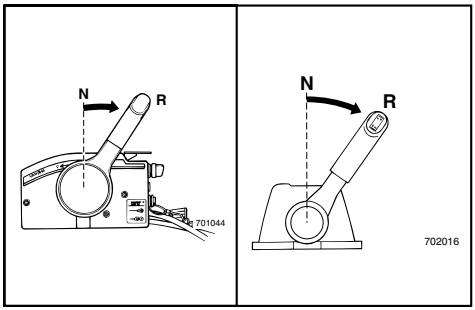
ティラハンドル仕様

1) スロットルコントロールグリップを全閉の状態にします。
2) ハイドロチルト/マニュアルチルト仕様は、チルトロックレバーをロックの状態にします。



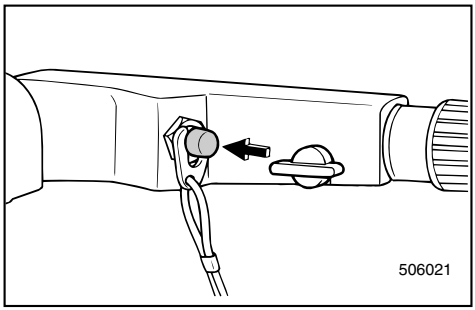


3) すみやかにギヤシフトレバーを後進側(船尾側)へ倒します。



リモートコントロール仕様

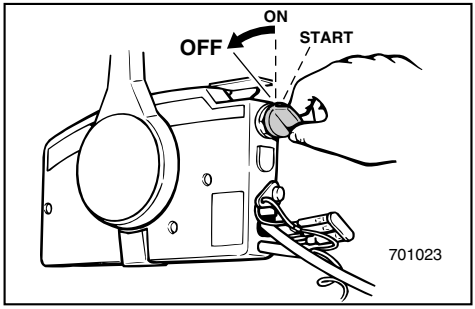
1) ハイドロチルト/マニュアルチルト仕様は、チルトロックレバーをロックの状態にします。
2) ニュートラルインタロック(サイドマウント仕様)を引き上げ、すみやかにリモコンレバーを後進側(船尾側)へ倒します。



JMG38010

エンジン停止

数分間、アイドリング(無負荷最低速回転)でエンジンを冷やしてから行なってください。
高いエンジン回転での航走後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

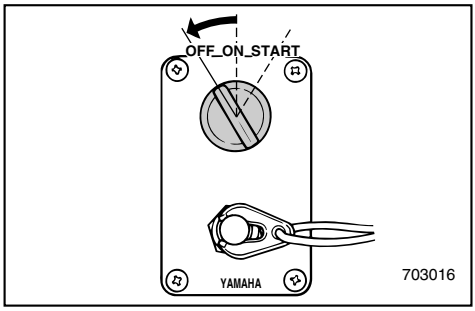


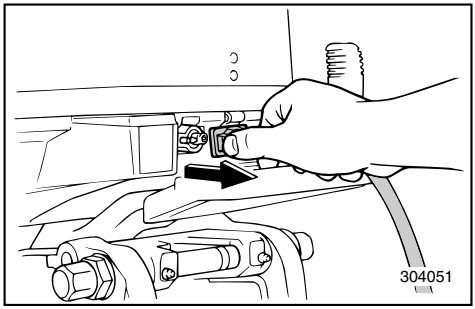
JMG35410

1) エンジン停止ボタンを数秒間押します、またはエンジンスイッチを"OFF"の位置へ回します。(機種や仕様によって異なります)

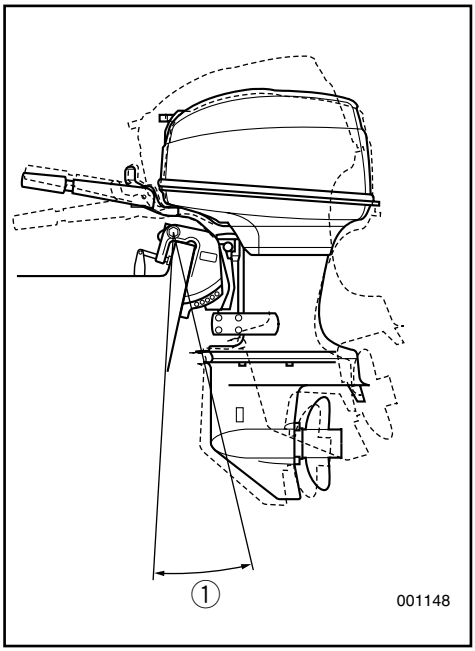
要　点

カールコードを引っ張って緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを引き抜いてもエンジンは停止します。
このとき、エンジンスイッチは必ず"OFF"にしておきます。





2) エンジン停止後は燃料ホースコネクタを外します。
3) 燃料タンクにエアベントスクリュがある場合は閉めます。
4) キーを抜きます。



JMG60011

船外機トリム角度

船外機のトリム角度は、航走中のボートの船首の高さの位置決めに使います。
トリム角度が適正であれば、最大限の性能が発揮され燃費も向上します。
適正なトリム角度は、船体、エンジン、プロペラの組み合わせで決まります。また、適正なトリム角度は、ボートの負荷、海況、航走スピード等によって変わります。

⚠警　告

過度なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。
ボートの安定性や操船に異常を感じた場合は、ただちに航走スピードを落としてトリム角度の再調整を行なってください。

① トリム範囲

JMG61011

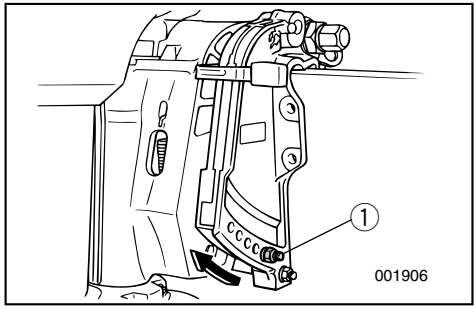
トリム角度の調整

マニュアルチルト仕様

船外機トリム角度の調整用の穴がブラケットに4または5ヵ所用意されています。

1) エンジンを止めます。
2) 少しチルトアップした状態でチルトピンを外します。
3) チルトピンを再び好みの穴位置に差し込みます。

船首を上げとるきは、上方の穴にチルトピンを差し込みます。
船首を下げるときは、下方の穴にチルトピンを差し込みます。
トリム角度を変えて試走を行ない、ボートの種類や使用状況に合わせて最適な位置を選んでください。



① チルトピン

⚠警　告

- **トリム角度を調整する前には、必ずエンジンを停止してください。**
- **チルトピンを外したり差し込んだりする場合は、手を挟まれないように注意してください。**
- **チルトピンの位置を変えて最初に操船するときは、十分注意をしてください。徐々にスピードを上げ、ボートの安定性を欠く兆候や操作系の問題が無いかを見てください。不適切なトリム角度は、操船に支障をきたします。**

要　点

船外機のトリム角度は、チルトピンを1段ずらすことにより約4°変わります。

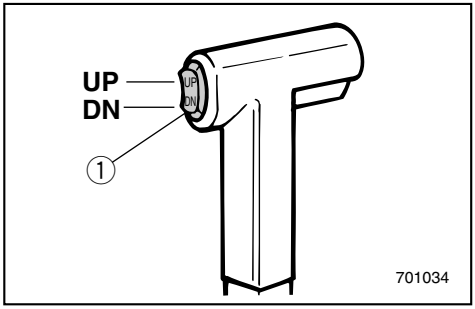
JMG61111*

トリム角度の調整

パワートリム/チルト仕様

⚠警　告

- **トリム/チルト角度を調整するときは、船外機の周辺に人が居ないこと確認し、身体が挟まれないように注意をして行なってください。**
- **トリム角度を変えて最初に操船するときは、細心の注意を払ってください。徐々に速度を上げ、船体の安定性や操作系に問題が無いかどうか確認しながら行なってください。不適切なトリム角度は操船に支障をきたします。**

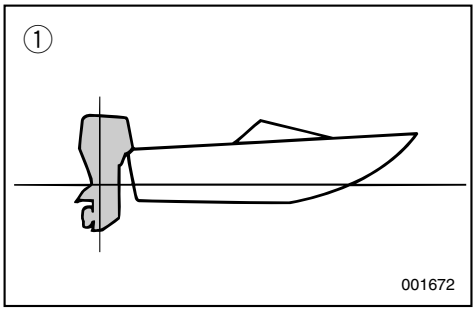


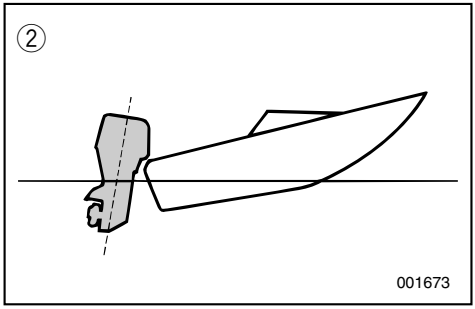
トリム角度の調整は、パワートリム/チルトスイッチで行ないます。
船首を上げる場合は、"UP"側のスイッチを押します。
船首を下げる場合は、"DN"側のスイッチを押します。
トリム角度を変えて試走を行ない、ボートの種類や使用の状態に合わせて最適な角度を選んでください。

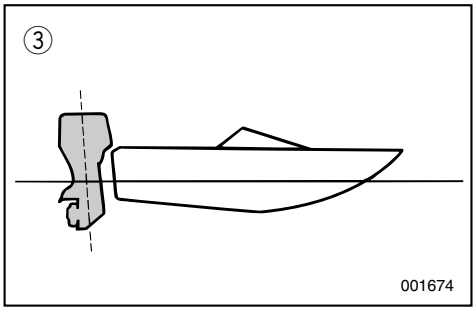
① パワートリム/チルトスイッチ

⚠注　意

チルトピンを外したままチルトダウンしないでください。パワートリム/チルトの破損の原因となります。チルトピンはトリム/チルトロッドがシリンダに底付きすることを防ぐためのものです。







JMU19150

トリム角度の設定とボートの取り扱い

ボートが滑走しているときは、一般的に船首はキールラインが水面よりも3°～5°上がっている状態が安定性がよく効率もよくなります。船外機トリム角度を大きく取ったときは、ボートは左右どちらかにハンドルを取られる傾向を示す場合があります。そのときはステアリング操作で補ってください。またはトリムタブの調整で補うこともできます。

① トリム角度適正
② 船首上がり(トリム角度大)
③ 船首下がり(トリム角度小)

船首上がり

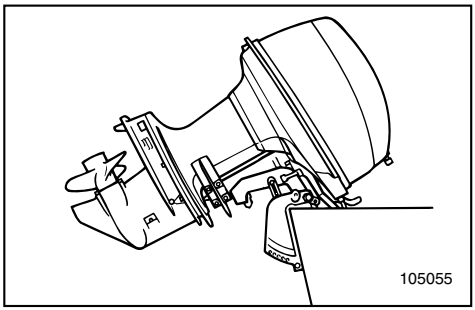
船外機のトリム角度を大きく取りすぎた場合は、航走中に船首が上がり過ぎます。この状態は船底への水の抵抗が増し、性能や燃費が低下します。更に過度のトリムアップは、プロペラがエアドローを引き起こし大きな性能低下を招きます。また、ボートが飛び跳ね乗員が船外へ投げ出される恐れもあります。

船首下がり

船首が下がっているときは、停止状態からの発進加速が良くなります。高速航走での過度のトリムダウン(トリムイン)は、船首の抵抗が大きくなり、操船が困難となりボートの安定性を欠き危険を招く恐れがあります。

要　点

ボートの種類によっては、船外機のトリム角度の調整を行なっても航走姿勢が殆ど変化しないこともあります。



JMH10111

チルトアップ・ダウン

係留保管や浅瀬での係留時には、電食(水中の微弱電気による金属の腐食)や海草類の付着によってプロペラやロワケースが損傷を受けないように船外機をチルトアップします。

⚠注　意

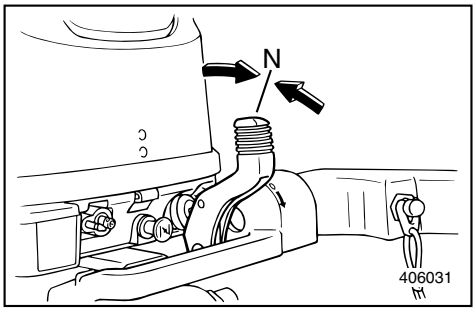
- **エンジンを停止してから、チルトアップしてください。**
  エンジン運転中にチルトアップした場合、オーバヒートによる損傷を受けます。
- **ティラハンドルを押さえつけてチルトアップしないでください、ティラハンドルを損傷させる恐れがあります。**

⚠警　告

チルトアップ･ダウンの操作をするときは、付近に人が居ないこと確認してください。また、船外機に身体を挟まれないように注意してください。

⚠警　告

燃料漏れは、火災を招く恐れがあります。長時間チルトアップする場合は燃料が漏れることがありますので、燃料ホースコネクタを外してください。

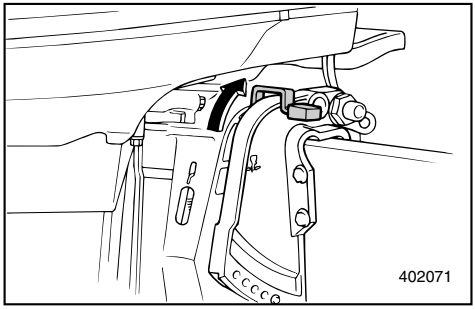


JMG63810

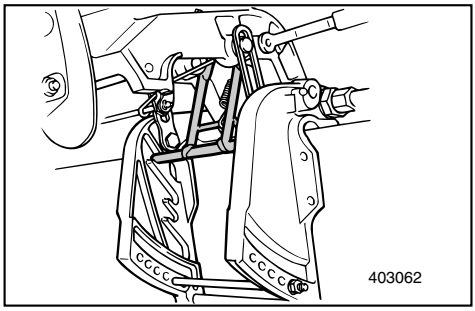
チルトアップ

マニュアルチルト仕様

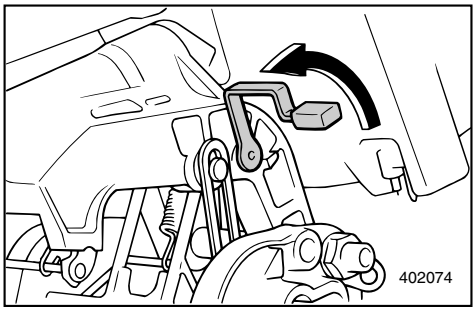
1) シフトを中立(ニュートラル)にします。
2) 燃料ホースコネクタを外します。



3) チルトロックレバーを解除の位置にします。



4) トップカウルの後部を持って、いっぱいまでチルトアップします。
5) チルトサポートバーが自動的にクランプブラケット内側の溝に入り固定されます。

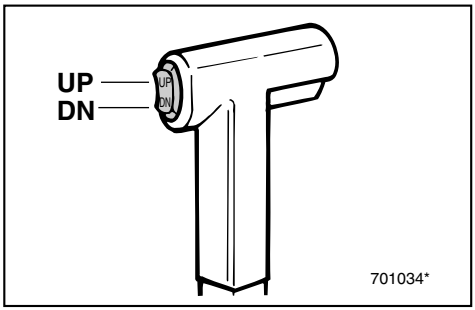


JMG73310

チルトダウン

マニュアルチルト仕様

1) チルトロックレバーをロックの位置にします。
2) チルトサポートバーが自動的にクランプブラケット内側の溝から外れるまで少しチルトアップします。
3) チルトダウンします。

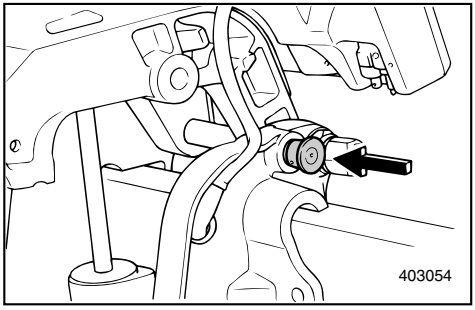


JMG53010

チルトアップ

パワートリム/チルト仕様

1) 燃料ホースコネクタを外します。
2) パワートリム/チルトスイッチの"UP"側を押して船外機をいっぱいまでチルトアップさせます。



3) チルトサポートノブをクランプブラケットへ押し込んで船外機をささえます。

⚠警 告

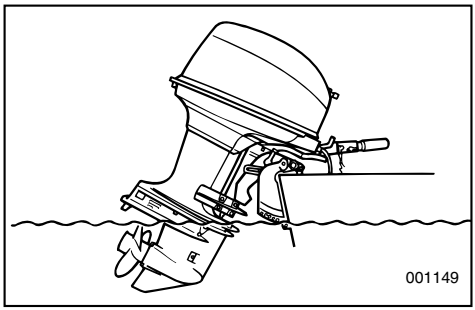
チルトアップ後は必ずチルトサポートノブを押し込んで船外機を保持してください。パワートリム/チルトユニットの油圧が抜けて船外機が不意にチルトダウンする場合があります。

JMG53110

チルトダウン

パワートリム/チルト仕様

1) パワートリム/チルトスイッチの"UP"側を押し、いっぱいまでチルトアップされた状態にします。
2) チルトサポートノブを引き出し、元の位置に戻します。
3) パワートリム/チルトスイッチの"DN"側を押してチルトダウンさせます。



JMG70011

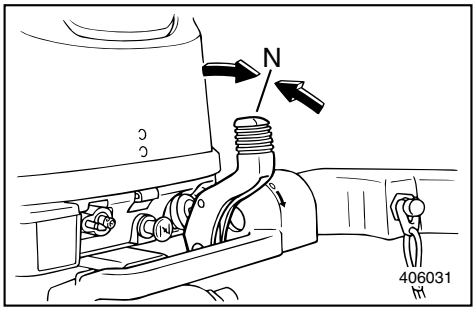
浅瀬航走

マニュアルチルト仕様

この船外機は少しチルトアップした状態で、プロペラの位置を水底から遠ざけることにより浅瀬を航走することができます。

⚠警　告

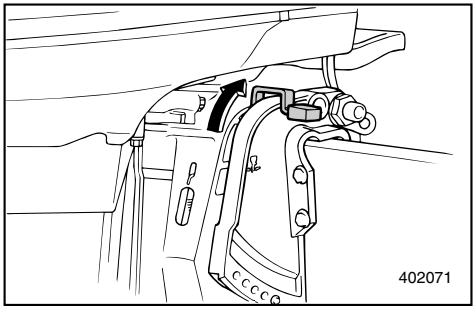
- **シフトを中立(ニュートラル)にしてから、浅瀬航走の操作を行なってください。**
- **浅瀬航走中はチルトロック機構が作動しません。また水中の障害物等にロワケースが衝突した場合、水面上にはね上がり操船に支障をきたす恐れがあります。**
- **過大な後進出力を使用した場合は、水面上にプロペラがはね上がり大きな事故の原因となる恐れがありますので、十分に注意をしてください。**
- **水深の有る場所へ来たら、ただちに元の位置に戻してください。**



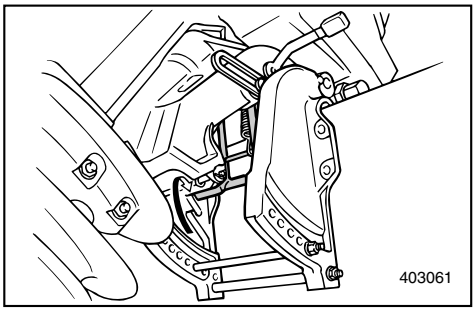
JMG71211

浅瀬航走セットの手順

1) ギヤシフトレバーを中立(ニュートラル)にします。



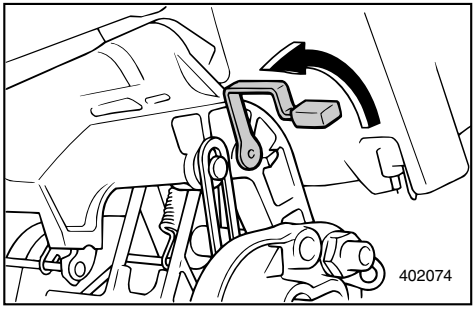
2) チルトロックレバーを引き上げ、チルトロックを解除します。



3) トップカウルの後部を持ち、チルトサポートバーが自動的にロックするまで船外機を少しチルトアップさせます。この状態で浅瀬航走ができます。

要　点

この船外機は、2箇所の浅瀬航走の位置が選べます。



元の位置に戻すとき

1) チルトロックレバーをロックの位置へ戻します。
2) チルトサポートバーが自動的にクランプブラケットの溝から外れるまで少しチルトアップします。
3) ゆっくりと最後までチルトダウンします。

JMH60010

他の航走状況

塩水での使用

塩水で使用した後は、塩の結晶で冷却水経路が詰まらないように、真水で洗浄してください。

要　点

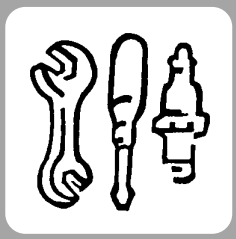
第 4 章の"運搬と保管"の冷却経路の洗浄の項目をご覧ください。

泥水での使用

泥水で使用する場合は、クロームメッキウォータポンプキット(オプション)の取り付けをお勧めいたします。ヤマハ取扱店へご相談ください。



－メモ－





JMK00010

第4章
点検と整備

仕様諸元 4-1
運搬と保管.....4-3
船体に取り付けた状態での運搬 4-3
長期保管.....4-4
定期点検 4-8
定期点検表.....4-8
グリス給脂箇所 4-9
スパークプラグの点検.....4-11
燃料系統の点検 4-12
トップカウルの点検.....4-12
燃料フィルタの点検.....4-13
ヒューズの交換 4-14
アイドリングスピード
（無負荷最低速回転）の点検.....4-15
配線と各接続部の点検.....4-16
排気ガス洩れの点検.....4-16
冷却水洩れの点検 4-16
パワートリム／チルトユニットの
点検.....4-16
プロペラの点検 4-17
ギヤオイルの交換 4-19
アノードの点検 4-20
バッテリの点検 4-21
ボルト、ナット締め付け状態の点検....4-23
船外機外観.....4-23
付属工具と部品.....4-23

JMK12011

仕 様 諸 元

項目 ＼ 機種名	単位	40XWH
寸法		
全長	mm	1,073
全幅	mm	402
全高 L/X	mm	1,364/1,461
トランサム高さ L/X	mm	550/649
重量 L/X	Kg	78/82
性能		
全速回転範囲	r/min.	4,500～5,500
最高出力	HP @ r/min.	40 @5,000
アイドリングスピード	r/min.	950～1,050
エンジン		
エンジン種別		2-ストローク, L2
総排気量	cm^3	703
内径×行程	mm	80.0×70.0
点火方式		C.D.I.
スパークプラグ	NGK	B7HS
電極隙間	mm	0.5～0.6
操作系方式		ティラハンドル
始動方法		手動始動/電動始動
バッテリ規格（JIS）		65D31～95E41
発電出力	V-A (W)	12-6
始動系		チョーク式
ドライブ		
ギヤ		前進一中立一後進
減速比		2.0 (26/13)
トリム／チルト方法		マニュアル
プロペラマーク		G
燃料とオイル		
推奨燃料		無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	L	24
推奨エンジンオイル		ヤマハ船外機 (SS) オイル
エンジンオイル容量	L	—
オイル／ガソリン混合比		1 : 50
推奨ギヤオイル		ヤマハ船外機ギヤオイル
ギヤオイル容量	cm^3	430
締め付けトルク		
スパークプラグ	N•m (kgf•m)	25 (2.5)
プロペラナット	N•m (kgf•m)	35 (3.5)

40XWT	—	—
675 362 1,364/1,461 550/664 81/84		
4,500～5,500 40 @5,000 950～1,050		
2-ストローク, L2 703 80.0×70.0 C.D.I. B7HS 0.5～0.6 リモートコントロール 手動始動/電動始動 65D31～95E41 12-6 チョーク式		
前進ー中立ー後進 2.0 (26/13) パワートリム/チルト G		
無鉛レギュラーガソリン 24 ヤマハ船外機 (SS) オイル — 1：50 ヤマハ船外機ギヤオイル 430		
25 (2.5) 35 (3.5)		

JMU00722

運搬と保管

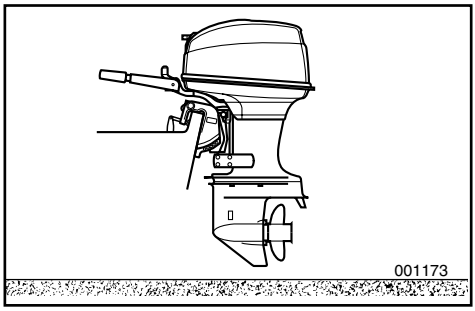
JMU01060

船体に取り付けた状態での運搬

船外機の運搬は通常の航走状態と同じ姿勢で行なってください。このときに、路面から十分に間がとれない場合は、チルトアップして船外機を確実に保持できるような道具(トランサムバー等)を使用して運搬してください。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

⚠警　告

- **チルトアップしているときは、道具を使って保持している場合でも、船外機の下には入らないでください。偶発的原因で船外機が勢いよく降下して、身体が挟まれる恐れがあります。**
- **専用燃料タンクを運搬する際は、燃料タンクを空にしてください。**



⚠注　意

ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー/ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が勢いよく降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

JMK18010

長期保管

船外機を長期にわたって保管する場合は、劣化損傷を留めるためにヤマハ取扱店にて格納点検を受けられることをお奨めいたします。
ご自身でやられる場合は、簡易的方法として次のようにしてください。

⚠注　意

- **船外機内部の冷却水が完全に抜けきるまで、横に向けて置かないでください。冷却水が燃焼室へ逆流する恐れがあります。**
- **保管は乾燥した換気の良い直射日光の当たらない場所で行なってください。**

JMU01123

1) 真水を使って船外機外部を洗ってください。(“船外機外観”の項を参照ください)
2) 燃料ホースコネクタを外します。燃料バルブが有るものは閉じます。
3) 冷却経路に真水を供給しながら、燃料系統内の燃料が無くなってエンジンが停止するまでアイドリング(無負荷最低速回転)で運転します。(“冷却経路の洗浄”の項を参照ください)
4) 電動始動機種はバッテリを外します。(“バッテリの取り外し”の項を参照ください)
5) 船外機から冷却水を完全に抜き、表面をふきあげます。
6) スパークプラグを外します。
7) 小量のエンジンオイルを各シリンダ内へ注入します。
8) 手動でフライホイールロータを4～5回転させオイルを行き渡らせます。
9) スパークプラグを取り付けます。

JMU01062

燃料タンク

1) 保管される場合は、専用燃料タンク内を空にしてください。
2) 専用燃料タンクの保管は、乾燥した換気の良い場所で、直射日光が当たらないようにして行なってください。

JMK23212

冷却経路の洗浄

⚠注　意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。ウォータポンプが壊れ、オーバヒートしてエンジンが損傷します。
エンジン始動前には、冷却経路に水を供給してください。

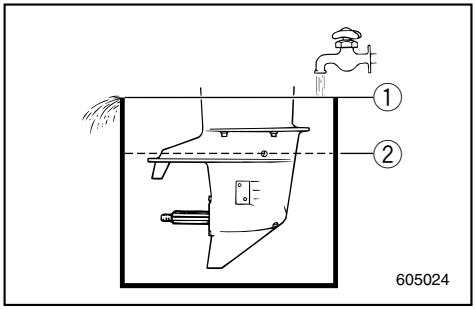
JMK21510

● 水槽を使った洗浄

1) 船外機を水槽にいれます。
2) キャビテーションプレートが浸かるまで真水を入れます。
3) シフトを中立(ニュートラル)にしてエンジンを始動させます。
4) 数分間アイドリング(無負荷最低速回転)で運転します。

⚠注　意

水位がキャビテーションプレート以下の場合は冷却水の供給が十分に出来ず、エンジンに損傷をきたします。



① 水面
② 最低の水位

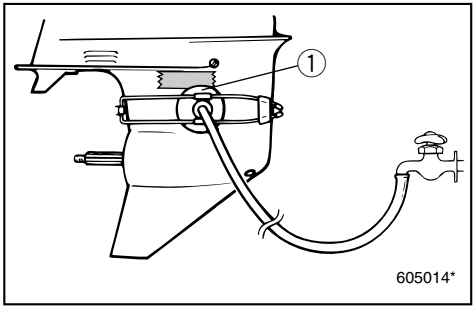
JMK21310

● 水洗キット(オプション)を使った洗浄

⚠警　告

水洗キットを使う場合は、必ずプロペラを外してください。

1) 水洗キット①のゴムカップが冷却水吸水口をふさぐように取り付けます。
副冷却水吸水孔をガムテープのようなものでふさいでください。
2) 水洗キットと水道蛇口をホースでつなぎます。
3) シフトを中立(ニュートラル)にして、水道水を供給しながらエンジンを始動させます。
4) 数分間アイドリング(無負荷最低速運転)で運転します。



① 水洗キット(部品番号90890-46014)

JMK29011

バッテリの取り扱い

⚠警　告

バッテリ取り扱い上のご注意
バッテリは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発しけがをすることがあります。

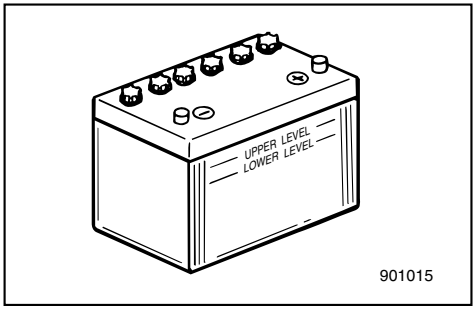
- **火気厳禁＝ショートやスパークをさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。爆発の恐れがあり危険です。**
- **充電は風通しのよいところで行なってください。**
- **落下等の強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリ液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。**
- **子どもの手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリ液が皮膚、衣服に付着したときは直ちに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。**

バッテリは製造業者によって違いがありますので、わからないことはバッテリ製造業者にお問い合わせください。

1) ショートしないように、常に(−)側のバッテリコードから先に外し、ボートからバッテリを降ろします。
2) バッテリ本体と各ターミナルを清掃します。
   各室の液面が上限までなるように蒸留水を補給します。
3) 直射日光の当たらない、冷所で乾燥した換気のよい平らな場所で保管します。



JMK32010

定期点検

⚠警　告

- **本書で指示なき作業等を行なうときは、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ取扱店へ作業を依頼してください。**

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

JMU19630

定期点検表

作業内容についての説明は第4章の各項目をご覧ください。
(●)印の項目については、お客様ご自身で点検を行なってください。
(○)印の項目については、最寄りのヤマハ取扱店に依頼してください。

項目	内容	初回		次回	
		10時間 (1ヶ月)	50時間 (3ヶ月)	100時間 (6ヶ月)	200時間 (1年)
スパークプラグ	清掃/調整/交換	●	●	●	
グリス給脂箇所	注入			●	
ギアオイル	交換	●		●	
燃料系	点検	●	●	●	
燃料フィルタ（分解可能フィルタ）	点検/清掃	●	●	●	
燃料タンク（専用燃料タンク）	点検/清掃				●
アイドリングスピード（キャブレタモデル）	点検/調整	●/○		●/○	
アノード（外部）	点検/交換		●/○	●/○	
アノード（内部）	点検/交換				○
冷却水経路	清掃		●	●	
プロペラ/割ピン	点検/交換		●	●	
バッテリ	点検/充電	●/○			
スロットルリンク/スロットルケーブル/スロットルピックアップタイミング	点検/調整				○
シフトリンク/シフトケーブル	点検/調整				○
サーモスタット	点検				○
パワートリム/チルト装置	点検				○
ウォータポンプ	点検				○
カウリングクランプ	点検				●

要　点

塩水や泥水等でのご使用後は、真水を使って洗浄してください。
お客様の船外機の使用状況により、点検時間が異なる場合がありますのでご了承ください。
詳しいことは、ヤマハ取扱店へご相談ください。

JML01010

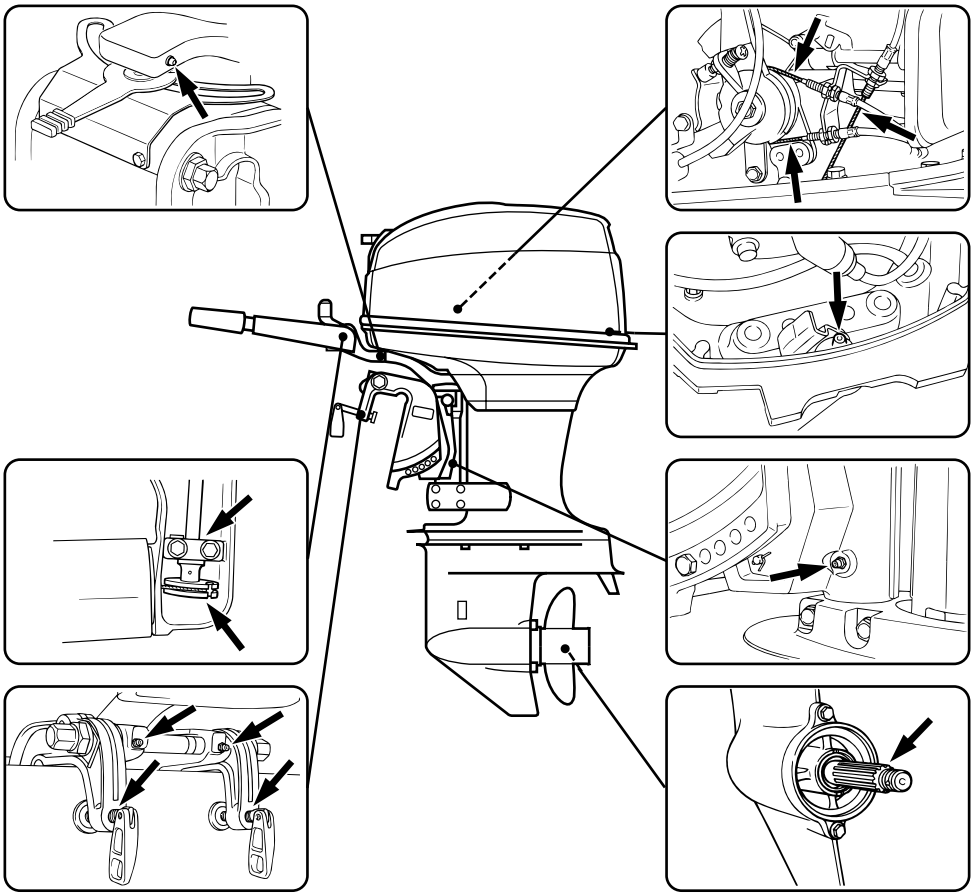
グリス給脂箇所



ヤマハグリスA　(耐水グリス)
部品番号　90890-69910(50g)
90890-69911(250g)



ヤマハグリスD　(耐食グリス) *1
部品番号　90890-69920(50g)



*1.プロペラシャフト用

103012

JML01010

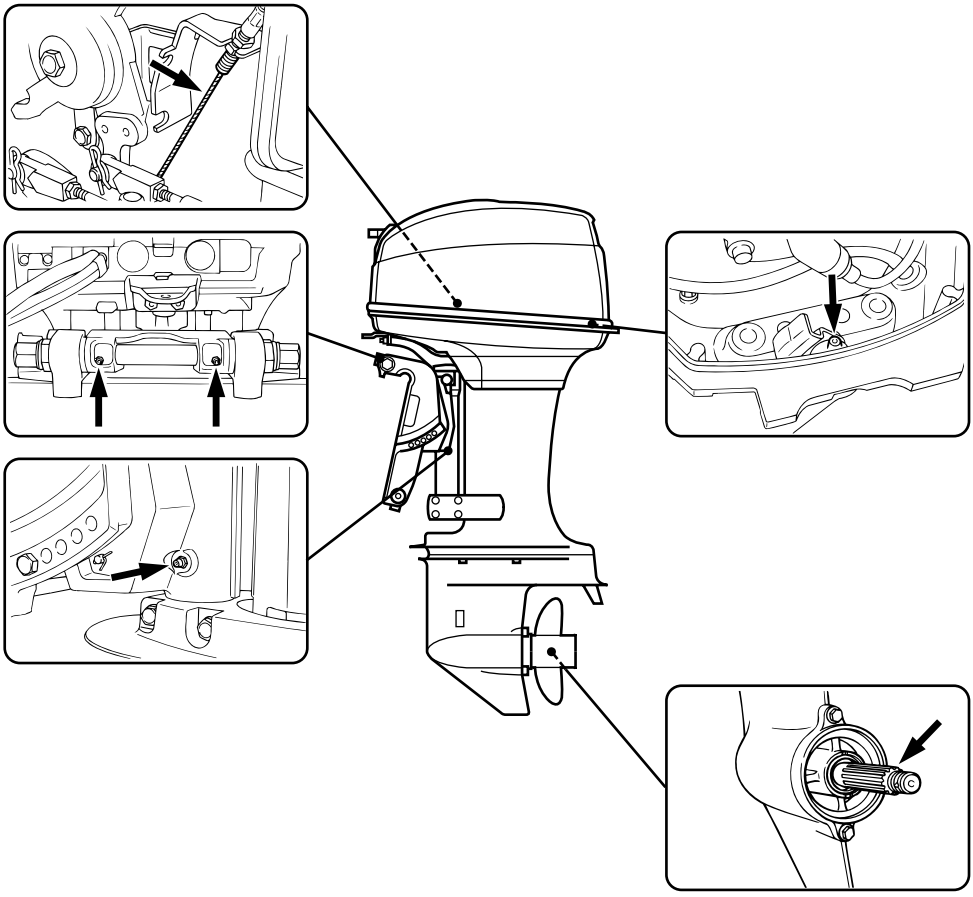
グリス給脂箇所



ヤマハグリスA　(耐水グリス)
部品番号　90890-69910(50g)
90890-69911(250g)



ヤマハグリスD　(耐食グリス) *1
部品番号　90890-69920(50g)



103162

*1.プロペラシャフト用

JMK36011

スパークプラグの点検

▲警　告

スパークプラグ脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
漏電して、火災等を誘発する恐れがあります。

スパークプラグは、点検が簡単なエンジンの重要な構成部品です。スパークプラグの状態は、エンジン性能に影響を与えます。スパークプラグは、電極にカーボン等が付着して徐々に劣化して行きますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。電極が消耗していたり、カーボン等で汚損している場合は交換してください。

標準スパークプラグ；
第 4 章の仕様諸元をご覧ください。

電極の隙間は、隙見ゲージを用いて点検し、規定値に合わせてください。

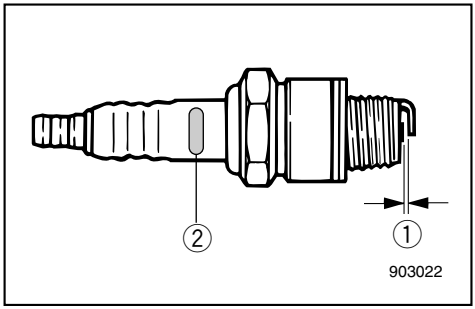
電極隙間；
第 4 章の仕様諸元をご覧ください。

スパークプラグの取り付けは、取り付け面をきれいに拭いて規定トルクで締めてください。

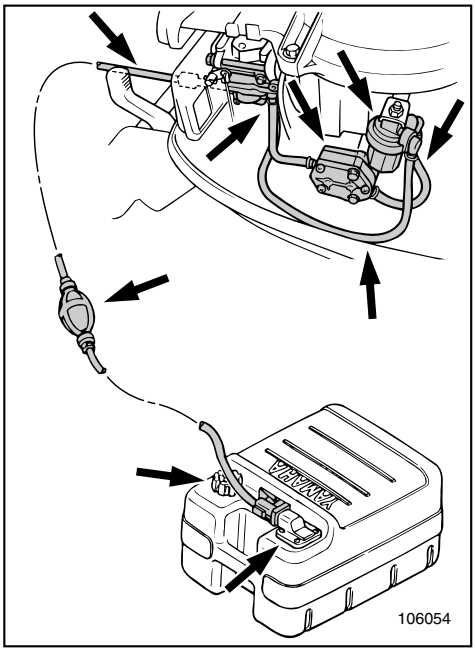
スパークプラグ締め付けトルク；
第 4 章の仕様諸元をご覧ください。

要　点

新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使用して1/4～1/2回転締め込んでください。出来るだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定値で締めてください。



① 電極隙間
② スパークプラグ番号



JMK38010

燃料系統の点検

⚠警　告

ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。

燃料ホース等からの燃料洩れ、亀裂、詰まり等を点検してください。
不具合が有れば、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。

主な点検箇所

- 燃料系統部品からの燃料洩れ
- 燃料ホース接続部からの燃料洩れ
- 燃料ホースの亀裂や疲労

⚠警　告

燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。
燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。

JMU16330

トップカウルの点検

トップカウルを両手で押して、締まり具合を点検してください。
ガタ等がある場合は、ヤマハ取扱店で修理を行なってください。

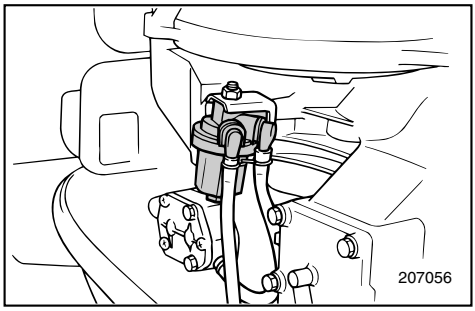
JMK50001*

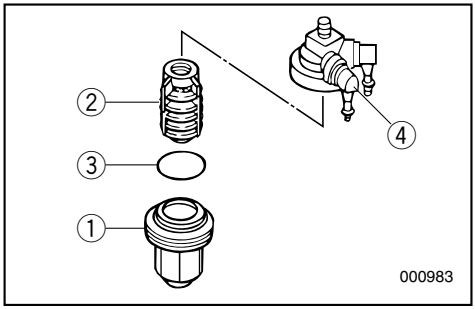
燃料フィルタの点検

⚠警　告

ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。

- **作業上でなにかわからないことがあるときはヤマハ取扱店にご相談ください。**
- **本作業はエンジンが熱いときや運転中には行なわないでください。冷えてから行なってください。**
- **燃料フィルタにはガソリンが残っているので、タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。**
- **作業中はガソリンがこぼれる恐れがあります。容器を使って回収しながら行なってください。こぼれた場合には直ちに拭き取ってください。**
- **作業は換気の良い場所で行なってください。専用燃料タンクはボートから降ろして行なってください。**
- **燃料フィルタの再組付けは注意深く確実に行なってください。組み付け不良や取り付け不良は、燃料がもれ火災や爆発の原因となる恐れがあります。**





JMU09811

エンジン本体燃料フィルタの清掃

1) 燃料フィルタ本体を固定してあるナットを外します。
2) 容器を添えてこぼれたガソリンを回収しながら、フィルタカップ①を緩めて外します。
3) エレメント②を外し、洗浄して乾燥させます。エレメントやOリング③の状態を点検します。損傷のある場合は交換します。もし燃料に水が混入している場合、燃料タンクの点検と清掃を行ってください。
4) フィルタカップにエレメントを入れ、Oリングを付けてからフィルタベース④へ確実にねじ込みます。

5) 燃料フィルタ本体をブラケットに取り付けます。
6) エンジンを始動させ、燃料フィルタや燃料ホースからの燃料もれがないことを確認します。

JMK76011

ヒューズの交換

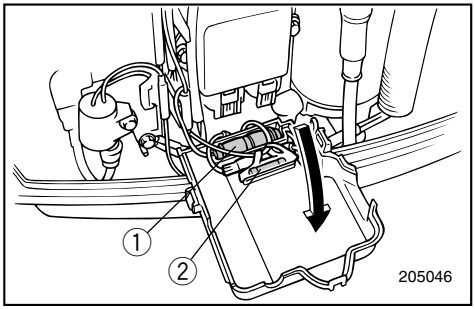
ヒューズが切れたとき(電動始動仕様)はヒューズボックスを開け、中のヒューズを新しい同容量のものと交換します。

⚠警　告

規定容量のヒューズを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると、電装系の故障や火災の原因となる恐れがあります。

要　点

新しいヒューズに替えてもすぐに切れる場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。



① ヒューズボックス
② ヒューズ(20A)

JMU19250

アイドリングスピード(無負荷最低速回転)の点検

⚠警　告

- **エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。**
- **エンジン運転中は手、髪、衣服等が回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。**

⚠注　意

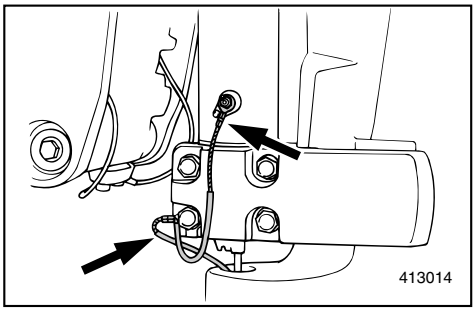
この作業は水上で行なってください。陸上で行なう場合は水洗キットや水槽を使って行なうことも出来ます。

本作業は診断用のタコメータ(エンジン回転計)が必要です。水洗キットや水槽を使った点検では水上での点検結果と違うことがあります。

1) 中立(ニュートラル)でエンジンを始動させ、暖機運転を終了させます。
2) 規定のアイドリングスピード（第4章の仕様諸元参照）であるか点検します。

要　点

アイドリングスピードの点検はエンジンが完全に暖まった状態で行なってください。点検が困難な場合や調整が必要な場合はヤマハ取扱店へご相談ください。



JMK78011

配線と各接続部の点検

1) 導通用の各アース線が確実に取り付けられていることを点検してください。
2) 各配線の接続が確実にされていることを点検してください。

JMK78110

排気ガス洩れの点検

エンジンを始動させ、クランクシリンダ(エンジン本体)部分等から 排気ガス洩れの無いことを点検してください。

JMK78210

冷却水洩れの点検

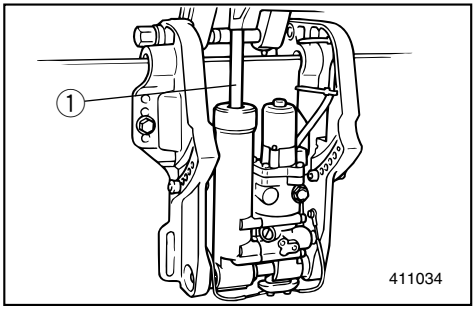
エンジンを始動させ、クランクシリンダ(エンジン本体)部分等から冷却水洩れの無いことを点検してください。

JMU01639

パワートリム／チルトユニットの点検

⚠警　告

- **チルトアップしているときは、チルトサポートレバーで保持している場合でも船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。**
- **船外機の下に誰もいないことを確認してから点検を行なってください。**

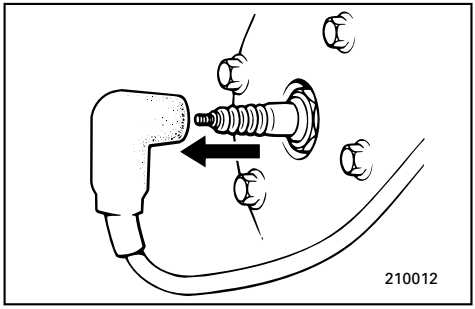


1) パワートリム／チルトユニットから、オイル漏れがないか点検します。
2) リモートコントロールとボトムカウル（装備されている場合）のパワートリム／チルトスイッチの作動を点検します。
3) 船外機をチルトアップしたときに、チルトロッドとトリムロッド①がいっぱいに伸びているか点検します。

4) チルトロッドとトリムロッドが腐食または損傷していないか点検します。
5) 船外機をチルトダウンさせます。チルトロッドとトリムロッドがスムーズに作動するか点検します。

要　点

作動に異常がある場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。



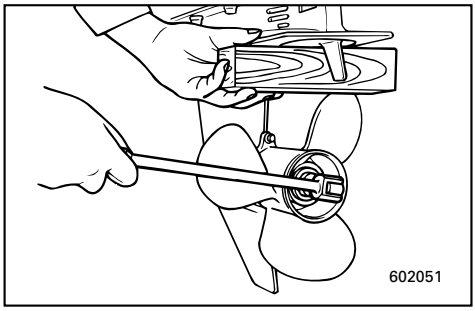
JML08013*

プロペラの点検

⚠警　告

プロペラ付近は偶発的原因でエンジンが始動したときに、大きな事故につながる恐れがあります。

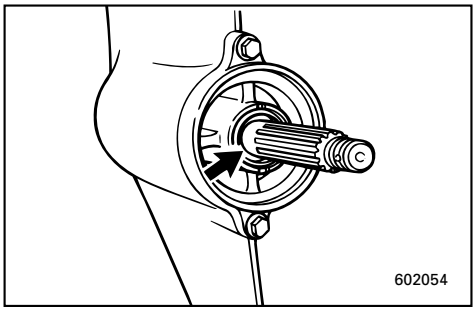
- **プロペラの点検や脱着等を行なう前には、全てのスパークプラグキャップをスパークプラグより外してください。さらにシフトを中立(ニュートラル)にし、エンジンスイッチからキーを抜き取り、緊急エンジン停止スイッチのロックプレートを外してください。またバッテリコードをバッテリから外してください。**
- **プロペラナットを締めたり緩めたりするときは、手でプロペラを持たないでください。プロペラとキャビテーションプレートの間に木片等をかませてから行なってください。**



JML09010

主な点検箇所

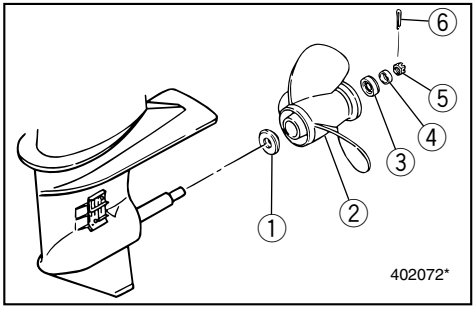
- プロペラブレードの減り、表面の侵食、損傷等の点検をします。
- プロペラシャフトのスプライン(山谷部分）の減りや損傷等を点検します。
- プロペラシャフトに釣糸が巻き込まれていないか点検します。
- プロペラシャフトのオイルシールが損傷していないか点検します。



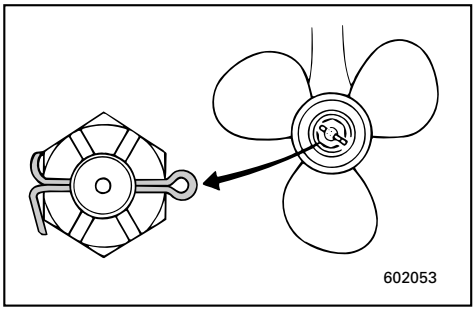
JML18110

プロペラの取り外し

1) プライヤを使って割ピンを伸ばし、引き抜きます。
2) プロペラナット、ワッシャ、スペーサを取り外します。
3) プロペラとスラストワッシャを取り外します。



① スラストワッシャ
② プロペラ
③ スペーサ
④ ワッシャ
⑤ プロペラナット(2面幅;22mm)
⑥ 割ピン



JML19410*

プロペラの取り付け

⚠注　意

- **プロペラを取り付ける前には、スラストワッシャを必ず入れてください。プロペラとロワケースが接触し損傷する恐れがあります。**
- **割ピンは新しいものを使用して端を確実に折曲げてください。プロペラ脱落の原因となります。**

1) プロペラシャフトにヤマハグリスD(耐食グリス)を塗布します。
2) スラストワッシャを広がっている方からプロペラシャフトに入れ、プロペラを取り付けます。
3) スペーサ、ワッシャを入れプロペラナットを規定トルクで締め付けます。

規定トルク；
第 4 章の仕様諸元をご覧ください。

4) プロペラシャフトとプロペラナットの穴位置を合わせ、割ピンを取り付けます。割ピンの端を折り曲げます。

要　点

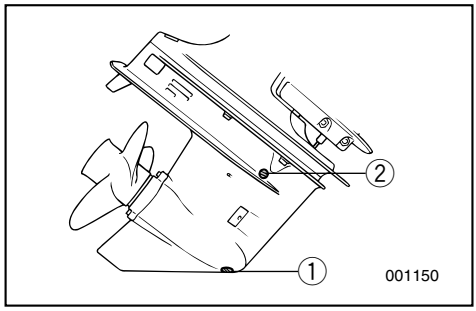
規定トルクでプロペラナットを締め付けたときにプロペラシャフトの穴位置が合わないときは、更に締め込んで穴位置を合わせてください。

JMU01455

ギヤオイルの交換

⚠警　告

- **チルトアップされた船外機の下には入らないでください。偶発的に船外機が降りてきた場合には、重い事故につながる恐れがあります。**
- **船外機はボートトランサムや専用スタンドに確実に固定してください。**



1) ドレンプラグが真下にくる位置まで船外機を傾けます。
2) 廃油の受け皿をロワケースの下に敷きます。
3) オイルドレンプラグ①を外します。

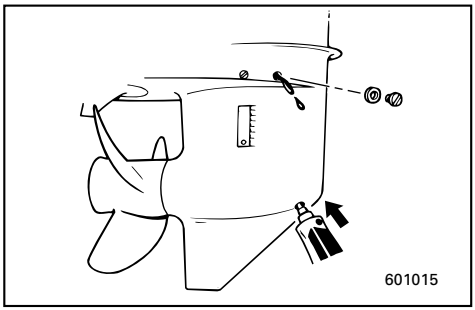
要　点

オイルドレンプラグは磁石となっています。オイルドレンプラグに金属粉が付着している場合は、取り除いてから再び取り付けてください。

4) オイルレベルプラグ②を外し、ギヤオイルを残らず排出させます。

⚠注　意

排出したギヤオイルが白濁しているときは、ギヤケースの損傷等の恐れがあります。ヤマハ取扱店へ点検、修理を依頼してください。



5) 船外機を垂直状態に保ち、ヤマハ船外機ギヤオイル(ハイポイドギヤオイル#90)をオイルドレン穴より注入します。

ギヤオイル容量；
第4章の仕様諸元を参照ください。

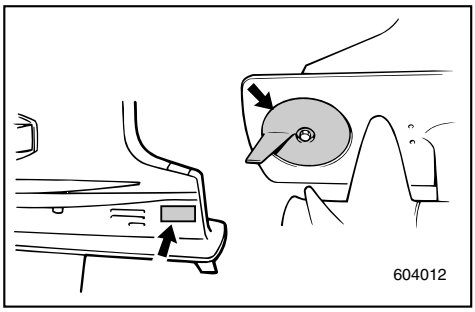
6) 注入したギヤオイルがオイルレベル穴から溢れ出したら、オイルレベルプラグを締めます。次にオイルドレンプラグを締めます。

⚠注　意

オイルレベルプラグやオイルドレンプラグの緩みはロワケース内への水混入の原因となります。ガスケットを新しく交換して、確実に締め付けてください。

要　点

廃油の処理は、法律や条例等に従っておこなってください。



JMU07762

アノードの点検

アノードの役目は、船外機を電食(水中の微弱電気による金属の腐食)から保護するためのものです。
外部アノードの状態を点検し、新品の3分の1以上が消耗している場合は交換します。外部アノードの交換は、ヤマハ取扱店で行なってください。

⚠注　意

アノードに塗料を塗った場合は、電食防止効果がなくなりますので注意してください。

要　点

外部アノードにアース線が付いている機種の場合は、アース線を点検してください。パワーユニットに付いている内部アノードの交換と点検についてはヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU14871

バッテリの点検

⚠警　告

バッテリ取り扱い上のご注意
バッテリは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発しけがをすることがあります。

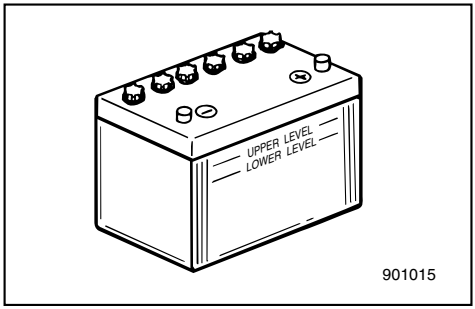
- バッテリの液量がロアレベル以下の状態で使用又は充電すると、バッテリの劣化を早めたり、爆発の原因となるおそれがあります。
- 火気厳禁＝ショートやスパークをさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。爆発の恐れがあり危険です。
- 充電は風通しのよいところで行なってください。
- 落下等の強い衝撃を加えないでください。
- バッテリ液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。
- 子どもの手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリ液が皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。

⚠注　意

- バッテリの保管状態が悪い場合には、ただちに使用不能となります。
- 水道水はさまざまな物質が含まれているためバッテリに悪影響を与えます。電解液の補充用には使わないでください。



1) 月に一度の割合で、電解液の量を点検してください。
電解液が減っている場合は、蒸留水を規定の位置まで補充してください。

2) 電圧計を用い、充電状態が良好かどうか点検してください。

要　点

バッテリを充電または再充電される際は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

JML28011

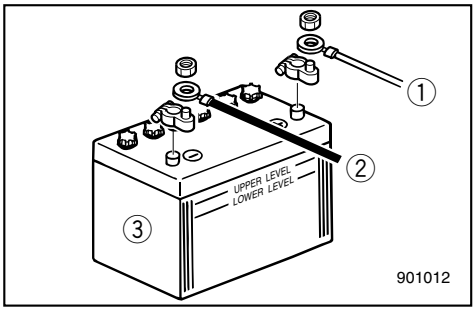
バッテリの取り付け

バッテリは船内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない水平な場所に確実に固定してください。

バッテリコードは、はじめに赤印端子を(+)側へ接続します。続いて黒色端子を(−)側に接続します。

⚠注　意

- **バッテリコードの脱着の際は、エンジンスイッチを"OFF"にしてから行なってください。**
- **バッテリコードの(+)と(−)を逆に接続すると、電装部品の故障等の原因になります。**
- **バッテリコードの接続は赤(+)側を先に、取り外しは赤(+)側を最後に行います。さもなければ、電装部品の損傷を招く恐れがあります。**
- **バッテリ端子とバッテリコードの接続は、接触面をきれいにして確実に行ないます。さもなければ、バッテリによるエンジンの始動ができなくなる恐れがあります。**



① (+)バッテリコード
② (−)バッテリコード
③ バッテリ本体

JML28310

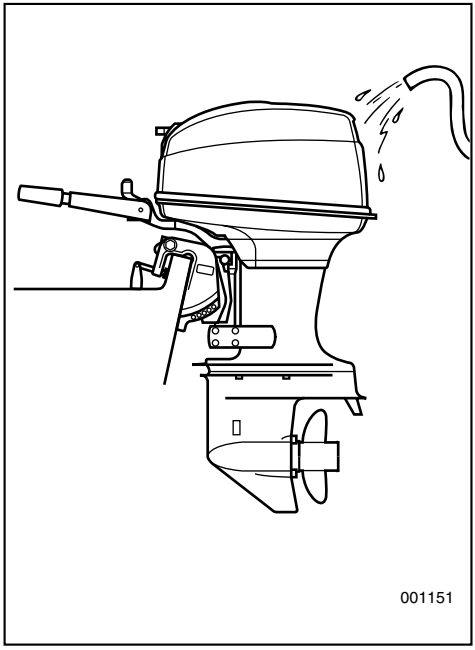
バッテリの取り外し

最初に(−)ターミナルからバッテリコードを外します。次に(+)ターミナルからバッテリコードを外します。

JML40011

ボルト、ナット締め付け状態の点検

1) フライホイールナットやシリンダヘッドボルト等が規定トルクで締っていることを点検してください。
2) 他のボルトやナットについても同様に点検してください。



JML42012

船外機外観

JML42510

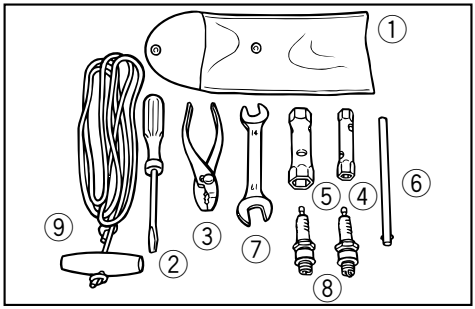
船外機の清掃

1) ご使用後は真水で船外機の外部を洗ってください。
2) 冷却経路の清掃は、"長期保管"の項目をご覧ください。

JML42810

船外機外装の点検

船外機本体表面の傷、破損、塗装の剥がれ、変色(白化)等が無いかどうかを点検してください。必要に応じて、塗料を塗って補修してください。
専用の塗料が用意されています。詳しくはヤマハ取扱店へお問い合わせください。



JML50011

付属工具と部品

① 工具袋
② ドライバ(+/−)
③ プライヤ
④ ボックスレンチ(10-12)
⑤ プラグレンチ(17-21)
⑥ ハンドル
⑦ スパナ(14-17)
⑧ スパークプラグ(気筒数と同数)
⑨ 応急始動用ロープ



JMN00010

第5章
不具合時の対応

故障と対策.....5-1
応急処置 5-5
衝撃を受けた場合 5-5
パワートリム／チルトが
作動しない場合 5-5
スタータモータが動かない場合 5-6
船外機を水中に落とした場合 5-8

JMU01100

故障と対策

万一、故障が生じたときは、ヤマハ取扱店にご相談ください。
一般的に考えられる故障を選び、その想定される原因を列記いたします。(機種や仕様により該当しない項目も含まれております)
不安な箇所がありましたら、できるだけそのままの状態でヤマハ取扱店に連絡し専門技術者におまかせください。

現象	推定原因	対応
A. スタータモータが動かない	1. バッテリの容量低下、または容量の不足。 2. バッテリターミナルの緩み、または腐食。 3. ヒューズ切れ。 4. スタータモータの故障。 5. 前進、または後進にシフトが入っている。	1. バッテリ状態の点検。指定容量のバッテリの使用。 2. バッテリコードの締め付け、ターミナルの清掃。 3. 原因を調べ、新しいものに交換。 4. ヤマハ取扱店にて修理。 5. 中立（ニュートラル）に戻す。
B. エンジンが始動しない。（スタータモータは動く）	1. 燃料タンクが空。 2. 燃料の汚染、または古くなっている。 3. 燃料フィルタの詰まり。 4. 始動手順の間違い。 5. 燃料ポンプの故障。 6. スパークプラグの不良。 7. スパークプラグ電極隙間が不適切。 8. 配線の接続不良、または損傷。 9. 電装部品の故障。 10. カールコードのロックプレートの外れ。 11. エンジン内部の損傷。	1.燃料を入れる。 2.新しい、きれいな燃料へ交換。 3.清掃、または交換。 4.第 3 章の“エンジン始動”の項目参照。 5.ヤマハ取扱店にて修理。 6.電極の清掃、または交換。 7.正規の隙間に合わせる。 8.接続の確認、または配線の交換。 9.ヤマハ取扱店にて修理。 10.緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込む。 11.ヤマハ取扱店にて修理。

現象	推定原因	対応
C. アイドリング（無負荷最低速回転）が不安定、またはエンストする。	1. スパークプラグの不良。 2. 燃料ホースが圧迫されている。 3. 燃料の汚染、または古くなっている。 4. 燃料フィルタの詰まり。 5. 電装部品の故障。 6. 警告機構の作動。 7. スパークプラグ電極隙間が不適切。 8. 配線の接続不良、または損傷。 9. 推奨外オイルの使用。 10. サーモスタットの不良。 11. キャブレタ調整不良。 12. 燃料ポンプの故障。 13. エアベントスクリュが閉まっている。 14. チョークノブが引かれている。 15. チルトの上げ過ぎ。 16. キャブレタの詰まり。 17. 燃料ホースの接続不良。 18. スロットルバルブの調整不良。 19. バッテリコードの外れ。	1. 電極の清掃、または交換。 2. 燃料ホース取り回しの点検。 3. 新しい、きれいな燃料へ交換。 4. 清掃、または交換。 5. ヤマハ取扱店にて修理。 6. 本項目“D”を参照。 7. 正規の隙間に合わせる。 8. 接続の確認、または配線の交換。 9. 推奨オイルへ交換。 10. ヤマハ取扱店にて修理。 11. ヤマハ取扱店にて修理。 12. ヤマハ取扱店にて修理。 13. エアベントスクリュを開ける。 14. チョークノブを戻す。 15. チルトを下げる。 16. ヤマハ取扱店にて修理。 17. 接続箇所の点検。 18. ヤマハ取扱店にて修理。 19. 確実に接続。

現象	推定原因	対応
D. 警告ブザーが鳴る、または警告灯が点灯する。	1. 冷却経路の詰まり。 2. エンジンオイル不足。 3. スパークプラグ熱価不良。 4. 推奨外オイルの使用。 5. オイルの劣化。 6. オイルフィルタの詰まり。 7. オイルポンプの故障。 8. ボートの過重荷。 9. ウォータポンプ、またはサーモスタットの故障。	1. 冷却水吸水口の点検。 2. 規定量まで補充。 3. 正規熱価のものに交換。 4. 推奨オイルへ交換。 5. 新しいオイルへ交換。 6. ヤマハ取扱店にて修理。 7. ヤマハ取扱店にて修理。 8. ビルジ、積み荷等の確認。 9. ヤマハ取扱店にて修理。
E. エンジンの力がない。	1. プロペラの損傷。 2. プロペラサイズの不良。 3. トリム角度の調整不良。 4. 船外機取り付け高さ不良。 5. 警告機構の作動。 6. 船底への貝、海草類の付着。 7. スパークプラグの不良。 8. 船外機への貝、海草類の付着。 9. 燃料ホースが圧迫されている。 10.燃料フィルタの詰まり。 11.燃料の汚染、または古くなっている。 12.スパークプラグ電極隙間が不適切。	1. プロペラの交換。 2. 指定回転範囲に適合するプロペラへ交換。 3. 再調整。 4. 再調整。 5. 本項目“D”を参照。 6. 清掃。 7. 電極の清掃、または交換。 8. 清掃。 9. 燃料ホース取り回しの点検。 10.清掃、または交換。 11.新しい、きれいな燃料へ交換。 12.正規の隙間に合わせる。

現象	推定原因	対応
F. 振動が大きい。	1. プロペラの損傷。 2. プロペラシャフトの損傷。 3. 海藻、貝類のプロペラへの付着。 4. 船外機取り付けボルト等の緩み。 5. ハンドルスイベル部の緩み、または損傷。	1. プロペラの交換。 2. ヤマハ取扱店にて修理。 3. 除去、清掃。 4. 締め付け。 5. 締め付け、またはヤマハ取扱店にて修理。
G. プロペラが回転しない。（わずかには回転する場合もある）	1. プロペラコーンのスリップ。 2. クラッチの損傷。 3. ドライブシャフト、またはプロペラシャフトの損傷。	1. プロペラの交換。 2. ヤマハ取扱店にて修理。 3. ヤマハ取扱店にて修理。

JMN20010

応急処置

JMH80010

衝撃を受けた場合

⚠警　告

船外機は、航走中に衝突による重大な損傷を受けることがあります。
損傷を受けた船外機は、安全な航走が出来ません。

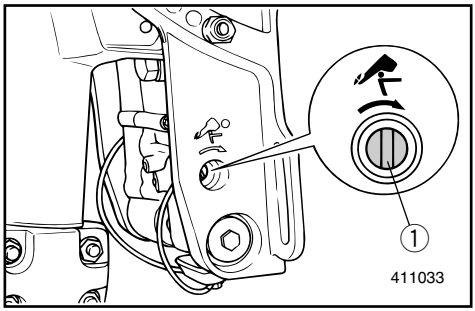


航走中の船外機に水中の物体が当たった場合は、次の手順に従ってください。
1) エンジンを停止してください。
2) 各部の作動を確認し、さらに各部品の損傷も点検してください。また、ボートの損傷具合も調べてください。
3) ゆっくりと注意しながら、最寄りの港へ引き返してください。
4) 再度ご使用になる前に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMG65210

パワートリム/チルトが作動しない場合

バッテリが上がったり、ユニットの故障等でパワートリム/チルトスイッチを使ってチルトアップやチルトダウンの操作ができないときは、手動操作で行なう事ができます。



① リリーフバルブ

JMG65011

1) マイナスドライバ等を使ってリリーフバルブを時計方向に止まるまで回します。
2) トップカウルの後部を持って手動でチルトアップ/ダウンの操作を行ないます。
3) 好みの位置でリリーフバルブを元の位置まで締め付けるとそこでチルト角度が固定されます。

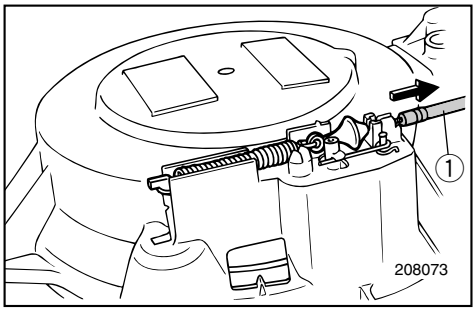
JMN30111

スタータモータが動かない場合

始動装置が作動しない場合(スタータモータが動かない場合)は、応急始動用ロープを使ってエンジンを始動することができます。ただしボートの仕様やぎ装状態によっては、操作が非常に困難な場合があります。

⚠警　告

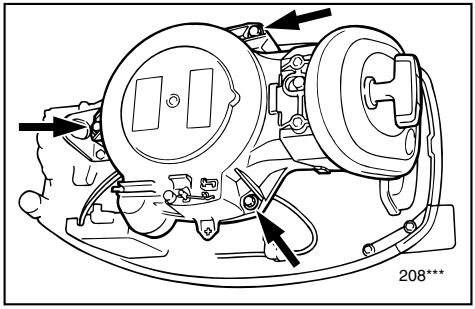
- **この操作は非常時に最寄りの港へ引き返すときに限って行なってください。**
- **応急始動用ロープを使ってエンジンを始動する際は、始動安全装置が作動しません。ボートが急発進し、事故につながる恐れがあります。シフトは必ず中立(ニュートラル)にしてください。**
- **応急始動用ロープを引いてエンジンを始動させるときは、背後に人が居ないことを確認してください。**
- **エンジン始動の際は、衣服等が巻き込まれないようにしてください。**
- **エンジン始動後は、フライホイールや他の回転部分に触れないようにしてください。トップカウルやフライホイールカバー等を取り付けないでください。**
- **エンジン運転中は、イグニションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。**



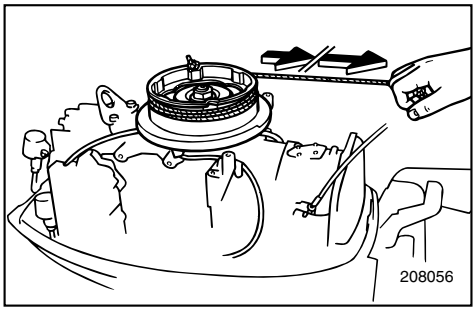
JMN34910

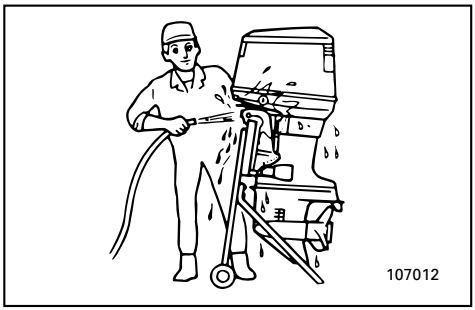
応急始動

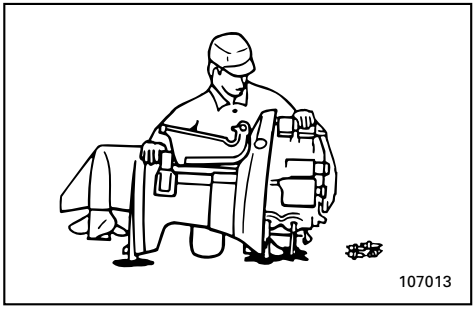
1) トップカウルを外します。
2) 始動安全ケーブル①が装備されている機種は、引っ張りながら外します。

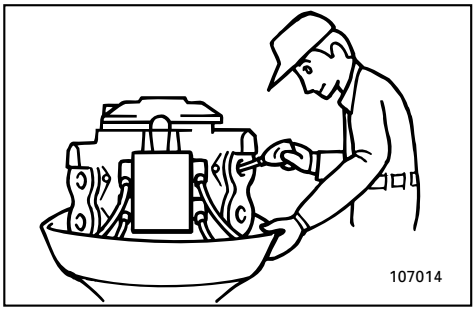


3) 3本のボルトを外して、始動装置/フライホイールカバーを外します。
4) "エンジン始動"の項を見て始動の準備をします。緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込みます。また、エンジンスイッチが装備されている機種は"ON"にします。
5) エンジンが冷えているときは、チョークノブを引きます。
6) 応急始動用ロープの結び目をフライホイールの切り欠きに入れ、時計方向に1～2回巻き付けます。
7) 抵抗を感じるところまでロープをゆっくりと引きます。
8) そこから一気に引っ張ります。一度で始動しない場合は、操作を繰り返してください。









JMN50012

船外機を水中に落とした場合

エンジンを水没させた場合は、ただちに分解整備をしなければなりません。分解整備が遅れるとエンジン内各部に錆や腐食の発生を促す原因となりますから、ただちにヤマハ取扱店へ持参してください。
ただちに持参できない場合は、応急的に次の処置を施してください。

JMN50510

1) ただちにエンジンを水中から引き上げます。
2) 真水で洗い塩分、泥水、藻類を取り除きます。
3) スパークプラグを取り外し、プラグ孔からエンジン内部の水等を排出させます。
4) キャブレタ、燃料フィルタ、燃料ホース等から残っている燃料を排出させます。
5) キャブレタやスパークプラグ孔からエンジンオイルを注入し、手動でフライホイールロータを回転させオイルを行き渡らせます。
6) できる限り早くヤマハ取扱店に分解整備を依頼してください。

⚠警　告

ヤマハ取扱店での分解整備を受けずに再使用しないでください。



ーメモー

あ〜ん



JMP00010

第6章
索引

索引.....6-1

6

JMP10010

索引

あ
アイドリングスピード（無負荷最低速回転数）の点検 4-15
浅瀬航走 3-25
あなた自身と同乗者の安全のために 1-2
アノードの点検 4-20
安全にご使用するにあたって 1-2
う
運搬と保管 4-3
え
エアベントスクリュ 2-2
エンジンオイル 1-5
エンジン始動 3-8
エンジン始動ボタン 2-3
エンジンスイッチ 2-8
エンジン停止 3-17
エンジン停止ボタン 2-5
エンジン本体燃料フィルタの清掃 4-13
お
応急始動 5-7
応急処置 5-5
オーバヒート警告 2-15
主な構成部品 2-1
か
ガソリン 1-4
ガソリンとエンジンオイルの混合 3-5
き
ギヤオイル 1-5
ギヤオイルの交換 4-19
ギヤシフトレバー 2-3
緊急エンジン停止スイッチ 2-5, 2-9
く
グリス給脂箇所 4-9
け
警告装置 2-15
こ
故障と対策 5-1
し
塩水での使用 3-26
始動安全装置 1-8
出港前の点検 3-6
重要ラベル貼付場所 1-3
手動始動ハンドル 2-3
衝撃を受けた場合 5-5
仕様諸元 4-1
す
スタータモータが動かない場合 5-6
ステアリングフリクション調整レバー 2-12
スパークプラグの点検 4-11
スロットルインジケータ 2-4
スロットルコントロールグリップ 2-4
スロットルフリクション調整ノブ 2-4
せ
製造番号の記録 1-1
船外機外装の点検 4-23
船外機外観 4-23
船外機製造番号 1-1
船外機の仕様区分 1-1
船外機トリム角度 3-18
船外機の清掃 4-23
船外機の取り付け 3-1, 3-3
船外機を水中に落とした場合 5-8
前進•後進 3-15
船体に取り付けた状態での運搬 4-3
そ
操作系とその機能 2-2
た
他の航走状況 3-26
他の船舶や遊泳者の安全のために 1-2
暖機運転 3-14
ち
長期保管 4-4
チョークスイッチ 2-8
チョークノブ 2-3
チルトアップ•ダウン 3-22
チルトサポートノブ 2-14
チルトサポートバー 2-14
チルトピン 2-13
チルトロック機構 2-14

て
定期点検表.....4-8
定期点検 4-8
ティラハンドル.....2-4
と
トップカウル脱着レバー 2-14
トップカウルの点検 4-12
取り付け高さ.....3-3
トリム角度の設定とボードの
取り扱い 3-21
トリム角度の調整.....3-19, 3-20
トリムタブ.....2-13
泥水での使用.....3-26
な
慣らし運転.....3-7
に
ニュートラルインタロック.....2-7
ニュートラルスロットルレバー.....2-7
ね
燃料計 2-2
燃料系統の点検.....4-12
燃料タンク 2-2, 4-5
燃料タンクキャップ.....2-2
燃料タンクへの給油 3-4
燃料とオイル.....1-4
燃料とオイルの給油 3-4
燃料ホースコネクタ 2-2
燃料フィルタの点検 4-13
は
排気ガス洩れの点検 4-16
配線と各接続部の点検 4-16
バッテリ 1-5
バッテリの取り扱い.....4-7
バッテリの取り付け 4-22
バッテリの取り外し 4-22
バッテリの点検.....4-21
パワートリム/チルトが作動しない
場合 5-5
パワートリム／チルトスイッチ.....2-10
パワートリム／チルトユニットの
点検 4-16
ひ
ヒューズの交換.....4-14
ふ
附属工具と部品.....4-23
フリーアクセレータボタン.....2-11
プロペラ 1-7
プロペラの点検.....4-17
プロペラの取外し 4-18
プロペラの取付け 4-18
ほ
ボートトランサムへの取り付け.....3-2
ボルト、ナット締め付け状態の点検...4-23
り
リモートコントロール 2-6
リモコンレバー.....2-7
リモコンレバーフリクション
調整スクリュ.....2-11
れ
冷却水洩れの点検 4-16
冷却経路の洗浄.....4-5

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は「ご購入店」または、下記ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

ご購入店

ヤマハ発動機販売（株）サービスセンター一覧　　平成14年10月1日現在

拠　点	電話番号	郵便番号	住　所
北海道サービス課　マリングループ	011-612-3120	063-0801	北海道札幌市西区二十四軒一条7−3−13
東北サービス課　マリングループ	022-235-1031	983-0035	宮城県仙台市宮城野区日の出町3−8−36
マリンサービスセンター東日本	045-775-1192	236-0007	神奈川県横浜市金沢区白帆4−4
マリンサービスセンター中部	0533-76-4560	441-0314	愛知県宝飯郡御津町御幸浜1−1−21 三河御津マリーナ内
マリンサービスセンター西日本	0724-63-3461	598-0048	大阪府泉佐野市りんくう往来北6番地 関空マリーナ内
中四国サービス課　マリングループ 広島（観音）フィールド	082-234-5551	733-0036	広島県広島市西区観音新町4−2874−86 観音マリーナ内
四国（志度）フィールド	087-894-0101	769-2101	香川県大川郡志度町志度1298−7
九州サービス課　マリングループ	092-885-6523	819-0001	福岡県福岡市西区小戸2−11−1 西福岡マリーナ内

ヤマハ発動機（株）お客様相談室

〒438-8501　静岡県磐田市新貝2500

フリーダイヤル0120−090−819
携帯電話等、フリーダイヤルがご利用できない場合は、
0538−32−1166をご利用下さい。

オープン時間　月曜〜金曜（除く祝祭日）　9：00〜12：00　13：00〜17：00

JMU01165

不 許 複 製

名　　称：40X
船外機取扱説明書
部品番号：66T-28199-04
発　　行：ヤマハ発動機株式会社
2003年4月

220315-000000	NHY-200-1

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
Printed in Japan
April 2003-0.2 × 1
66T-28199-04
(40XWH, 40XWT)
(J)

再生紙を使用しています。

Outboard

保証登録書

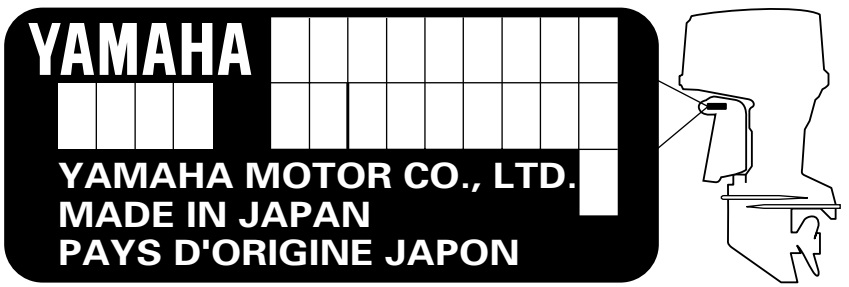
①販売店控（FAX用）

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商　品　コ　ー　ド							

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０　　年　　月　　日（納入日）～	一般保証満了日：２０　　年　　月　　日
	特別保証満了日：２０　　年　　月　　日

取付艇種		用　途（マル印）	レジャー　・　業務（営業）

ヤマハ拠点名	ヤマハ拠点コード

販　売　店　名　　（販売店　コード）	
ＴＥＬ番号：　　（　　）	
ＦＡＸ番号：　　（　　）	
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

ＤＭ発送元　　１．上記販売店　　２．発送しない　　３．その他（備考）

「お願い」：ご住所、ご氏名等の変更があった場合は速やかにご連絡下さい。

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項　　目	チェック	項　　目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（Ｆ－Ｎ－Ｒ）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量（４サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動（２サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量（ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

フリガナ		生　年　月　日
ご　氏　名		大正，昭和，平成 年　月　日 性別　男　女
フリガナ		
ご　住　所	〒□□□－□□□□	
Ｔ　Ｅ　Ｌ　：　　（　　）		
船　　名		定係港

YJB-0203

ヤマハ発動機（株）保証登録係　FAX No, 0120（790）ー 208

Outboard

保証登録書

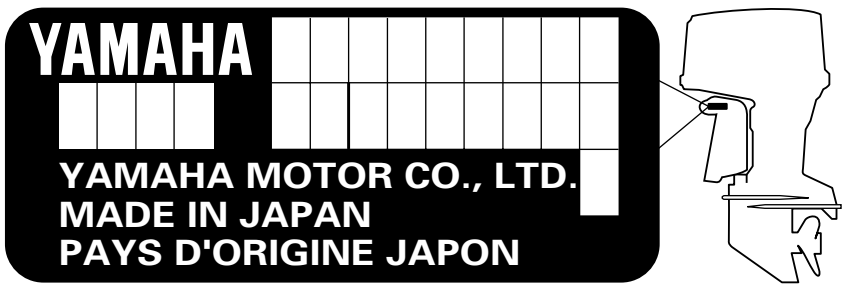
②ヤマハ販売会社控

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商　品　コ　ー　ド							

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０　　年　　月　　日（納入日）～	一般保証満了日：２０　　年　　月　　日
	特別保証満了日：２０　　年　　月　　日

取付艇種		用　途（マル印）	レジャー　・　業務（営業）

ヤマハ拠点名	ヤマハ拠点コード

販　売　店　名　　（販売店　コード）	
ＴＥＬ番号：　　（　　）	
ＦＡＸ番号：　　（　　）	
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

ＤＭ発送元　　１．上記販売店　　２．発送しない　　３．その他（備考）

「お願い」：ご住所、ご氏名等の変更があった場合は速やかにご連絡下さい。

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項　　目	チェック	項　　目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（Ｆ－Ｎ－Ｒ）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量（４サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動（２サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量（ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

フリガナ		生　年　月　日
ご　氏　名		大正，昭和，平成 年　月　日 性別　男　女
フリガナ		
ご　住　所	〒□□□－□□□□	
Ｔ　Ｅ　Ｌ　：　　（　　）		
船　　名		定係港

YJB-0203

ヤマハ発動機（株）保証登録係　FAX No, 0120（790）－ 208

Outboard

保証登録書

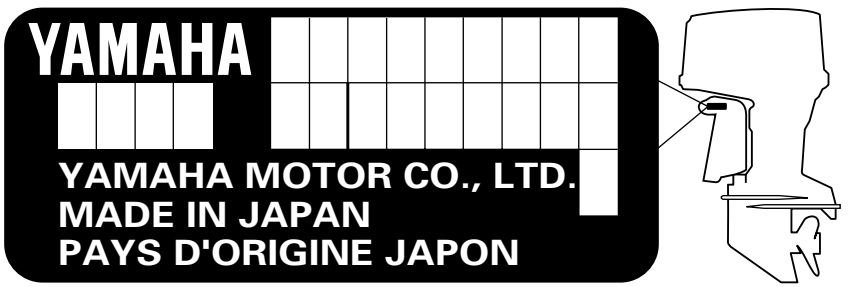
③お客様控（保証書）

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商　品　コ　ー　ド							

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０　　年　月　日 （納入日）	～	一般保証満了日：２０　　年　月　日
		特別保証満了日：２０　　年　月　日

取付艇種		用　途 （マル印）	レジャー　・　業務（営業）

ヤマハ拠点名	ヤマハ拠点コード

販　売　店　名　　（販売店　コード）	
ＴＥＬ番号：　　（　　）	
ＦＡＸ番号：　　（　　）	
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）	

ＤＭ発送元　　１．上記販売店　　２．発送しない　　３．その他（備考）

「お願い」：ご住所、ご氏名等の変更があった場合は速やかにご連絡下さい。

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項　　目	チェック	項　　目	チェック
備品（取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他）		シフトの入り具合（Ｆ－Ｎ－Ｒ）	
外観の状態		スロットル（グリップ、レバー）の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量 （４サイクルモデル）	
各スイッチ類の作動		オートルーブシステムの作動 （２サイクルモデル）	
オートルーブシステムの確認		高圧ポンプオイル量 （ダイレクトインジェクションモデル）	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	

プロペラサイズ		最高回転数	rpm

フリガナ		生　年　月　日
ご　氏　名		大正，昭和，平成 年　月　日 性別　男　女
フリガナ		
ご　住　所	〒□□□－□□□□	
Ｔ　Ｅ　Ｌ　：　　（　　）		
船　　名		定係港

YJB-0203

ヤマハ発動機（株）保証登録係　FAX No, 0120（790）ー 208

保 証 書

お買いあげいただきました裏面記載の製品に万一不具合がおきました場合にはこの保証書に基づき次の通り保証致します。
なお、この保証は日本国内で使用される当該製品に限り適用致します。

1．保証の発効
お買いあげいただきました当該製品の保証は、この保証書に弊社の販売店、取扱店が必要事項を記入の上、捺印することにより有効となります。

2．保証期間
保証期間は、納入日（お客様にお渡しした日）より一般保証１年間又は使用時間200時間、特別部品保証３年間又は使用時間300時間のいずれか先に到達したときまでと致します。特別保証部品はフューエルタンク等の燃料系部品、ステアリングブラケット等の操舵系部品、クランクシャフト等のエンジン部品、ドライブシャフト等の動力伝達系部品、ニュートラルスイッチ等の機能部品の破損に対して適用致します。尚、特別保証部品の詳細につきましては弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店へお問い合わせ下さい。

3．保証内容
（要件）
次の３つの要件を充すものに限ります。
⑴保証期間内に、当該製品を構成する弊社純正部品及び指定部品に、材料又は製造上の原因により発生した故障又は破損。
⑵保証期間内に弊社の販売店、取扱店に届け出の上保証修理が認められたもの。
⑶購入後１か月目の無償点検が指定されている製品については、その点検済を証する書面を提示すること。
（内容）
⑴この保証書に示す条件に従って、弊社の判断により無償にて当該部品の交換又は補修を行います。
⑵保証修理により取り外した不良部品は、弊社の所有となります。

4．保証修理の受け方
保証修理の適用を認められたときは、次の手順に従ってください。
⑴お買いあげの販売店、取扱店又は弊社指定販売店に於いて修理を受けてください。
⑵その際、登録済の保証書及び２．⑶の書面の提示及び当該故障又は破損物品の提出がないときは、保証修理の対象になりませんのでご注意ください。

5．保証除外項目
保証期間内でも、次の項目の一つに該当するときは保証修理の対象となりません。
（指定外品、天災に起因するもの）
⑴弊社純正及び指定以外の部品又は材料を使用した為に発生したとみなされる故障又は破損。
⑵天災、地変、公害、航行中又は海送、陸送中の事故、その他弊社の責に帰すことの出来ない事由により発生した故障又は破損。
⑶一般的に機能上影響のない腐食、錆、オイルのにじみ及び感覚的な現象。（音、振動等）
⑷経時変化により発生した塗装、メッキ面等の自然退色、ひび割れ及びこれらに類するもの。
（取扱方法等に起因するもの）
⑴取扱方法、保守方法もしくは保管方法の誤り又は保管場所の不適切によって発生したとみなされる故障又は破損。
⑵日常点検、点検整備、定期交換部品の交換等が実施されていないために発生したとみなされる故障又は破損。
⑶弊社が定める使用制限規定（定員、積載量、馬力等）を超えて使用したために発生したとみなされる故障又は破損。
⑷レースに使用したもの。
⑸弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われたエンジン又は艤装品の取付けによって発生したとみなされる故障又は破損。
⑹弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われた修理、整備、改造によって発生したとみなされる故障又は破損。
（※）通常の使用状態において消耗するもの（パッキン、オイルシール、プロペラ、プラグ等）は保証修理の対象になりません。

6．保守、点検、整備
当該製品を安全に御使用いただくために、弊社で定める保守、点検、整備は取扱説明書及び整備手帳に定めるところに従いお客様の責任において実施していただきます。又、これらに要する費用はお客様の負担となります。

7．保証の継承
保証期間内にある中古製品を購入されたお客様は、保証書に記載されている弊社販売店、取扱店に保証書を提示の上、点検整備（有料）を受けることにより、残余の保証期間を継承することができます。

ヤマハ発動機株式会社
静岡県磐田市新貝2500

YAMAHA